

# 北條秀司著作目録

村田 聰 一 郎

## 一、著 書

閣下ハ双雅房読物文庫▽

昭和15年12月26日 双雅房 B 6判 三八二頁 二円 函入

§天高き日ノ丸の内仲通りノ閣下ノ春星夫婦ノ華やかな夜景ノ表  
形式前後ノあとがきノ作品上演目録ノ新潮大衆文芸賞審査員の言

葉（長谷川伸・大仏次郎・加藤武雄・吉川英治・中村武羅夫・菊  
池寛・白井喬二）

\*新潮大衆文芸賞受賞。 \*\*新潮大衆文芸賞審査員の言葉を削除し  
た版もある。

丹那隧道

昭和18年4月5日 大川屋書店 B 6判 三九〇頁 定価二円

カバー装幀（伊藤嘉朗）

§丹那隧道ノ解氷期ノ高梁風ノ海女ノ北国日和

\*特別行為税五銭 売価二円五銭版もある。

風雪二十年

昭和19年7月15日 新小説社 B 6判 二二二頁 定価一円八〇

銭 特別行為税二〇銭 売価二円 装幀（山口蓬春）

§風雪二十年ノ東宮大佐ノ山彦ノ高砂ノ山がら物語ノ機場ノあと  
がき

ほんほんハ新月叢書一▽

昭和21年9月6日 新月書房 B 6判 九八頁 五円

§ほんほん

文案

昭和23年11月5日 羊文社 B 6判 二二三頁 一二〇円 装幀

（浜田右二郎） 函入

§千利休ノ文案ノ姥子の湯ノあとがき

青春劇場

昭和24年5月10日 銀柳書房 B 6判 三七八頁 一九〇円 装  
 幀(島村三七雄)

§青春劇場

王将

昭和24年5月15日 新月書房 B 6判 三六七頁 二〇〇円

§ぼんぼん／ぼんぼんの記／恋文／恋文の記／歳月／歳月の記／

王将／王将の記／初演のメモ

北條秀司ラジオ・ドラマ選集

昭和27年1月15日 宝文館 B 6判 二四五頁 二五〇円

§閣下／高砂／厩裡のある部屋で／果実／防風林／海女騒ぎ／

山霧の深い晩／あとがき／解説(森永武治)／資料・放送記録

王将

昭和27年3月10日 宝文館 B 6判 一九七頁 二〇〇円 装幀

(高橋国利) 函入

§口絵写真／王将 第一部(三幕)／第二部(三幕)／第三部(四

幕)／あとがき／上演記録

鷗鷺(おしづ)ラジオ・ドラマ新書一〇

昭和29年12月5日 宝文館 B 6判 一二四頁 一〇〇円

§鴛鴦／猛牛／京の宿／償還にて／作品覚え書

狐と笛吹きラジオ・ドラマ新書一五

昭和30年3月5日 宝文館 B 6判 一二〇頁 一二〇円

§狐と笛吹き／芝居の園(ラジオ東京開局ドラマ、一時間)／不

思議な町(NHK)／厄年(中部放送)／作品覚え書

井伊大老(全)ラジオ・ドラマ新書二四

昭和30年8月25日 宝文館 B 6判 一〇六頁 一〇〇円

§井伊大老

早春ラジオ・ドラマ新書三二

昭和30年10月1日 宝文館 B 6判 一一七頁 一〇〇円

§早春／雪女／風評／羅生門／夜の甲板にて

王将八角川文庫一三〇七

昭和30年10月5日 角川書店 文庫判 一九〇頁 七〇円

§王将(三部作)十幕十二場／あとがき／解説(倉島竹二郎)

放送劇 源氏物語

昭和32年2月20日 宝文館 B 6判 二五三頁 三〇〇円 函入

§空蝉／夕顔／葵の上／六条御息所／藤壘／朧月夜／明石の上／

五節の姫／花散里／紫の上／主なる配役／あとがき

変踏み入未来劇場五三

昭和32年8月31日 未来社 B 6判 四〇頁

§変踏み

\* 初版未確認。昭和46年5月27日発行の12刷版は、定価八〇円。

北條秀司作品集

昭和34年12月25日 演劇出版社 A4判 九七七頁 三、八〇〇

円

§表彰式前後／華やかな夜景／屋根裏の弁護士／姥子の湯／閣下  
／丸の内通り／千利休／しぶとい女／北国日和／丹那隧道／東宮  
大佐／山彦／マニラ亭／高砂／だんじり囃子／波止湯の風／高原  
日和／歳月／ばんばん／恋文／王将第一部／片恋／文楽／果実／  
王将第二部／冷凍部隊／防風林／王将第三部／霧の音／浮舟／狐  
と笛吹き／女将／井伊大老／土砂降り／麦踏み／向日葵／牛殺し  
／司法権／妄執／山鳩／末摘花／太夫さん／知恵子抄／明石の姫  
／穂高／好色一代男／いとはん／佃の渡し／おこんの初恋／四十  
雀／顔役／葦の笛／白鳥の死／雪手前／あとかぎ／作品初演目録  
京舞／北條秀司戯曲選集Ⅳ

昭和37年7月1日 青蛙房 A5判 四〇九頁 七五〇円 函入

§京舞／山鳩／佃の渡し／妄執／白鳥の死／表彰式前後／猛牛／  
向日葵／狐狸狸ばなし／おもかげ曾我／おこんの初恋／後記

霧の音／北條秀司戯曲選集Ⅴ

昭和37年9月20日 青蛙房 A5判 四四三頁 七五〇円 函入

§霧の音／女将／ヒモ／明石の姫／千利休／海女騒ぎ／防風林／  
物いわぬ雲／祇園囃子／生々流転／恋河童／後記

紙屋治兵衛／北條秀司戯曲選集Ⅵ

昭和37年12月25日 青蛙房 A5判 四七五頁 七五〇円 函入

§紙屋治兵衛／末摘花／顔役／麦踏み／黄塵／歳月／土砂降り／  
穂高／妖刃／保名と葛の葉／浅間の殿様／後記

王将／北條秀司戯曲選集Ⅰ

昭和38年5月30日 青蛙房 A5判 四七三頁 七五〇円 函入

§王将第一部／王将第二部／王将第三部／華やかな夜景／空蟬／  
波の鼓／姥子の湯／天高き日／山から物語／いとはん／冷凍部隊  
／後記

太夫さん／北條秀司戯曲選集Ⅴ

昭和38年10月20日 青蛙房 A5判 四六〇頁 七五〇円 函入

§太夫さん／浮舟／葛西橋／だんじり囃子／アラン軒／浮寝鳥  
／婦去来／高原日和／氷雨／屋根裏の弁護士／生霊／後記

閣下／北條秀司戯曲選集Ⅱ

昭和39年4月15日 青蛙房 A5判 四五一頁 七五〇円 函入

§閣下／高砂／藤壘／片恋／智恵子／東宮大佐／清水坂／秋草物  
語／夜な夜な中納言／薄雪太夫／丹那隧道／後記

松川事件／北條秀司戯曲選集Ⅵ

昭和39年8月25日 青蛙房 A5判 四五四頁 七五〇円

§松川事件／比叡風し／落葉の宮／四十雀／雪手前／果実／マニ

ラ亭／丸の内仲通り／好色一代男／うきくき源氏／花影抄／後記  
古都好日

昭和39年10月14日 淡交社 A5判 二一七頁 五〇〇円

§ 一月 おけら火 にらみ鯛 枯野／二月 雪権い 鴨なべ 京  
の大仏つあん／三月 比良の八荒 夜啼きうどん 青貝の間／四  
月 花かんざし 十三詣り 女狐／五月 若葉盛り あぶり餅  
糺の森／六月 青い雨 愛宕雷 ほととぎす／七月 朝がゆ 青  
山 五位の少将／八月 幽霊餅 送り火 地藏盆／九月 落し文  
鉄鉢料理 雨月／十月 夜店の灯 古雪車 牛祭／十一月 丹波  
栗 比叡風し 丑の刻詣り／十二月 ゆく年 雪の客 高瀬川／  
あとがき

狐と笛吹き／北條秀司戯曲選集Ⅳ

昭和39年11月20日 青蛙房 A5判 四六二頁 七五〇円 函入

§ 狐と笛吹き／花の名残り／司法権／恋文／油屋お鹿／堀江川／  
文楽／沙羅の花／祇園祭／井伊大老／芦刈／後記

京の日

昭和41年6月5日 雪華社 A5判 二六八頁 七〇〇円

§ 一月 雪しぐれ／二月 壬生楽／三月 日脚のぶ／四月 狐曇  
り／五月 鐘稽古／六月 梅雨曇／七月 お祭りぬけ／八月 六  
斎／九月 葛見舞／十月 女郎花／十一月 ぬく餅／十二月 大

つごもり／嵯峨野の道／湖北の鴨／比叡山／島原の廓／花見小路  
／葵祭／祇王寺さま／鬼のあるいた町／うすゆき日記／あとがき  
卯ばたの話

昭和42年12月20日 雪華社 A5判 二六五頁 七五〇円 口

絵・本文挿絵(林悌三) カバー(写真・北條美智留)  
§ 初芝居／山奥の湯／雪国／多情犬／奇蹟／春風馬堤曲／ミルミ  
ルカンカン／納骨／上野界限／佃島／川開き／チロル帽の団十郎  
／奥信濃／妙義おろし／キッス／終戦記／箱根登山／白夜／軽井  
沢の貉／浅間の樞野／北満の旅から／チェホフの空／わが新劇時  
代／武庫川べりの女の一生／あとがき

北京暖冬

昭和43年3月25日 青蛙房 B6判 二六五頁 七五〇円 函入

題字・サイン(著者) 装画・カット(林悌三)

§ 北京暖冬／飛騨路／浮名／遠い日／築地河岸／ぼんぼんの記／  
春の名残り／ふるさと日記／明石光代のこと／狐の初恋／冬の旅  
／自殺の季節／信濃大町にて／津軽野／行きはよいよい記／あと  
がき

祭りのふるさと

昭和43年8月1日 日本交通公社 B6判 三〇〇頁 四八〇円

カバー・ジャケット(ねぶた流し・絵・林悌三)

§一月 雪降りしきる火祭り……長野県 野沢／二月 凜凍る夜の田遊び……東京都 練馬／三月 燃え狂う達陀の行法……奈良市／四月 花の名残りの日吉祭り……滋賀県 坂本／五月 生きている江戸のお神輿……東京都 浅草／六月 茶の香漂う暗やみ祭り……京都府 宇治／七月 青霞そよぐ水郷神事……愛知県 津島／八月 夏も終りのねぶた流し……青森県下／九月 暴風雨下の裸踊り……静岡県 磐田／十月 南国の空の下龍蛇踊る……長崎市／十一月 落城を叩う狸追いの灯……福島県 須賀川／十二月 夜をこめて遠山神楽……長野県 遠山／あとかぎ

#### 古都祭暦

昭和44年2月27日 淡交社 A5判 二八九頁 六五〇円 撮影(井上博道) グラビア写真撮影(浅野喜市)

§おけら詣り／鬼やらい／お松明／やすらい祭／嵯峨狂言／壬生狂言／千本狂言／葵祭／嵯峨祭／竹伐り／祇園祭／六道詣り／大文字／地藏盆／千灯供養／松上げ／花笠灯笼／六斎念仏／赦免地踊り／牛祭／火祭／お十夜／お火焚／大根焚／餅搗き／あとかぎ／行事一覽

#### 奇祭巡礼

昭和44年9月15日 淡交社 A5判 二六八頁 六五〇円

§三州西尾のテンテコ祭り／南信濃新野の夜田楽／大和五条の鬼

走り／松本平の三九郎焼き／秩父隠れ里おんまらさま／明日香の宮のおん田遊び／秋田六郎の竹合戦／牛久保城下のうじ虫祭り／尾張熱田のおホホ祭り／奥近江の大風揚げ／相模大磯座問答／吉野山の蛙飛び／相馬の原の野馬追い／九十九里浜の鬼来迎／琵琶湖岸の気ちがい祭り／日高川べりの笑い祭り／奥三河のさん候祭り／美保ヶ関の諸手船／あとかぎ／行事のしるべ

#### 建礼門院八北條秀司戯曲選集Ⅹ

昭和44年11月25日 青蛙房 A5判 四七四頁 一、〇〇〇円 函入

§建礼門院／修羅／明治の雪／津軽の旅人／おぼこ／ウィーンの森／雪小袖／うすゆき川／仇ゆめ／後記

#### 奇祭風土記

昭和46年5月10日 淡交社 A5判 三二二頁 九〇〇円

§三輪山の繞道祭／三浦三崎のチャッキラコ／浅草寺の亡者送り／法隆寺の鬼追い／大和路の子出来おん田／初瀬川お綱はんの嫁入り／淡路島の練り子祭り／秋田湯沢の犬コマつり／美濃路のヒンココ祭り／飛騨古川の起こし太鼓／奥三河の夜念仏／三遠国境乗本の火振り／富士吉田の山じまい／鎌倉の非人面行列／奥能登のアエノコト／堺石津のヤッサイホッサイ／奈良春日野のおん祭り／男鹿半島の生剣／志摩大王崎の火祭り／あとかぎ／行事のし

るべ

大老ハ北條秀司戯曲選集XV

昭和46年12月20日 青蛙房 A5判 四二七頁 一、五〇〇円

§大老ノ女優ノ面白粉ノ深川年増ノ鬼ノ少将夜長話ノ道草ノ都鳥

ノお鹿あわれノ鳥獸戯画絵巻ノ後記ノ北條秀司戯曲初演年表

祭り紀行

昭和47年11月30日 昭和社出版部 A5判 三〇三頁 一、四〇〇円

§津軽のイタコ盆ノ若狭のお水送りノ信濃路の十日夜ノ尾張の男

女祭りノ三河一色の大提灯ノ裏襟名の鳥追いノ那智の火祭りノ祇

園祭りノ信玄原の火踊りノ和具の汐かけ祭りノ新野の供養踊りノ

大阪の夏祭りノ上州大島の火とぼしノ豊橋の鬼祭りノ曾我の傘

焼きノ鬼天竜の死霊祭りノ保呂羽山霜月神楽ノ向島七福神詣りノ

旅のしおり

北條政子ハ北條秀司戯曲選集XV

昭和48年1月5日 青蛙房 A5判 四七七頁 一、五〇〇円

函入

§北條政子ノ美しき落日ノ和泉式部ノ夜明けノ若き日の旅ノ江戸

紫ノ百花園裏ノ淫らな浜ノ雪しまきノ女親分

北條秀司劇作史

昭和49年12月26日 日本放送出版協会 B5判 六八六頁 六、〇〇〇円

§北條秀司劇作史

祭り歳時記

昭和50年7月25日 東京美術 B6判 二六一頁 一、二〇〇円

挿図(林悌三)

§大阪四天王寺のドヤドヤノ伏見法界寺の裸踊りノ敦賀の恵比寿

大里綱曳ノ若狭日向の水巾綱曳ノ秋田横手の梵天奉納祭ノ利根川

べりの泥んこ祭りノ奈良新薬師寺のお松明ノ三方五湖の王の舞ノ

木曾川沿いの虫送りノ知多半島の大饗祭りノ越後弥彦の燈籠神事

ノ近江中山の芋比べノ越中八尾の風の盆ノ信濃借宿遠近宮の祭り

ノ奈良坂の三人翁舞ノ碓氷峠の秋祭りノ秩父の夜祭りノ奥三河の

花祭りノ大阪海老江の霜月宮座ノ能登一の宮の鶴祭りノ行事のし

るべノあとがきにかえて

演劇雑記帳

昭和50年11月10日 読売新聞社 B6判 三三六頁 一、四〇〇円

装頓(代田堯) 本文装画(林悌三)

§演劇雑記帳 北條源氏のパロディノ新派という園ノ花冷えノ屋

上の役者ノ遠い日の宝塚ノ芝居好きの母ノ生れた町の寄席ノ京の

顔見世ノ劇作家以前ノ新劇運動の真似事ノ北條稻荷さまノ老作家

の繰り言／舞台劇への執念を／役者の集まらない稽古場で／老優達の死／緒形傘を喰す／読売文学賞を貰って／華やかな晩年／舞台への郷愁 王将（初篇を書いた頃／続篇らひばなし／三部作完成）／文楽（第一の受難／第二の受難／恋文／霧の音／歳月／山鳩／佃の渡し／浅間の殿様／智恵子抄／花の名残り（祇王寺の尼／清おじの死報）／お岩と伊右衛門／恋の八汐路／雪小袖／鳥獸戯面絵巻／建礼門院／奥の細道／春日局／亡きひとびと 修善寺の雨——岡本綺堂／若い死顔——井上正夫／島原好日——花柳章太郎（青木楼／太夫病）／北京日記抄——久保田万太郎／算盤を持つ芸術家——大谷竹次郎／芝居作りと人間作りと——長谷川伸／喜劇俳優の詩情——古川緑波／脱がない山高帽——畑中寥坡／ベルリンの怪事件——市川団十郎／古びたのろけ話——市川左団次／若き女形の急死——中村時蔵／み仏に抗議する——竹本綱太夫／栗屋泣かせ——大矢市次郎／愛すべき茶役者——坂東三津五郎／津軽野の夏——八木隆一郎／明るい新仏——安藤鶴夫／喧嘩友達——菊田一夫／粗製劇の戒め／劇作家を育てよう／弔詞／舛ばたばなし 東映大川社長の今昔／新国劇とのなれそめ／雪の夜の島田正吾／欠食時代の楽屋話／岡田嘉子の恩／ソ満国境黒河の夜／玄海灘の久保田团长／満映文芸作品鑑賞会／蔭の皇帝甘粕理事長／新京放送局森繁アナ／演劇青年井上正夫／自殺をはかっ

た井上／蜂野マナージャーの凶夢／男を泣かせる花柳章太郎／舞台の手弱女楽屋の雷／枕にひびく篠の音／役者莫迦と作者莫迦／明石光代と京塚昌子／東をどりの幹部連／舞踊劇の恩師鯉三郎／「浮舟」を浮かせた女編集長／女よりも女らしい歌右衛門／春宵女形の猛劇闘／ロッパ、エノケンの初顔合せ／NHK最後の放送劇／あとかぎ

#### カラー津軽路の魅力

昭和51年4月30日 淡交社 A5判 二二五頁 一、八〇〇円

§短い夏を彩るお祭り／オシラサマと巫女の生霊／いまも残る津軽の古唄／死霊が集まる川倉地藏／サイギサイギ岩木山信仰／津波にのまれた十三の港／さいはての漁村龍飛岬まで／日本海の光 落日／海の湯、山の湯、麓の湯

#### 新派群像

昭和51年5月12日 拙出版社 B5判 二二九頁 三、五〇〇円

§序文より感謝（川口松太郎）／序に代えて（水谷八重子）／あたたかい人 井上正夫／花柳章太郎との恋／大矢市次郎の気骨／孤愁の役者 藤村秀夫／神の如き英太郎／水彩名画 伊志井寛／霧立のぼるという女優／貴妃酔酒 西脇滋／物故した老優達 山口正夫 高橋潤 松宮慶次郎 中田三一郎／永遠の皇女 水谷八重子／団十郎娘 市川翠扇／薄幸の美女 成田菊雄／現役の老優

達 中川秀夫・竹内京子・島章・一條久枝・伊井義太郎／太夫仲間  
 間の京塚昌子・明石光代／新派略史／新派俳優過去帖／あとがき

奥の細道へ北條秀司戯曲選集Ⅷ

昭和51年11月20日 青蛙房 A5判 四七八頁 二、五〇〇円  
 函入

§奥の細道／春日局／氷河／女剣劇朝霧一座／暮春／波止場の風  
 ／西陣息子 待乳山／山彦／吉野狐／玉菊燈籠／後記／北條秀司  
 作品上演年表

演劇夜話

昭和53年10月15日 日月書店 B6判 三二三頁 一、六〇〇円  
 見返しの舞台装置図(田中良) カバー

§童謡をうたって死んだ井上正夫／喜美太夫を買ってくれた花柳  
 章太郎／憎っくき役者 中村勘三郎／万年雪のごとき島田正吾／  
 無頼俳優 辰巳柳太郎／新国劇の総帥 俵藤丈夫の死を痛惜する  
 ／戦雲下を水谷八重子とともに／踊る鬼 西川鯉三郎／狂言作者  
 竹楽二作の悲劇／王将雑話……いろいろな坂田三吉 坂田翁への手  
 紙 無実力の四段 王将と文楽／文楽騒動の序曲／彦根城で書い  
 た井伊大老／国立劇場の大老騒ぎ／団十郎兄弟の憤り／欠食をわ  
 すれさせた高砂の法悦／京舞供養／縁がなかった大播磨の利休／  
 中村歌右衛門の北條政子／古川緑波の手紙／昔懐しい宝塚少女歌

劇／夜な夜な中納言こぼれ話／思いは深し佃の踊り／復讐の売れ  
 っ子タレント 芦田伸介／オーロラの国から岡田嘉子／芸術座柿  
 茸落とし不覚／狐と笛吹きと滝沢修／扇の会の憎炎／松川事件の  
 熱風／生テレビの魅力「潜水坂」／奇人 高田保の恩／火葬の森  
 繁久弥／江戸紫の松緑・五十鈴／丹那隧道劇化の苦酸／埋もれて  
 いた片恋／比淑風し吹きまくる／七月二十三日酷暑／銀座嫌いの  
 浅草好き／「戸隠山の四十雀」／渋谷天外への見舞台本堀江川／  
 文之助茶屋うら話／和泉式部の寝眩／天衣無縫 翠鳳おばこ／芝  
 居の可笑しさ／大川橋蔵の旗挙げ芝居／築地小劇場の碑の前で／  
 津軽の旅人 大矢市次郎／水谷良重の松井須磨子／安曇野の浮名  
 ／安楽死の名人 中野実と花柳喜草／殺人外科劇化の経験／薄雪  
 大夫の出来たわけ／元海軍武官 中村勘七／あとがき

北條秀司自選戯曲集

昭和54年10月1日 発行者・北條秀司の喜寿を祝う会・青蛙房  
 B5判 一、〇七四頁 一万円 函入

§閣下／丹那隧道／王将／霧の音／狐と笛吹き／浮舟／未摘花／  
 井伊大老／いとほん／佃の渡し／四十雀／恋河童／浮寝鳥／比淑  
 風し／浅間大名／狐狸狐狸ばなし／紙屋治兵衛／堀江川／鬼の少  
 将夜長話／明治の雪／おばこ／千利休／奥の細道／淀君情史／自  
 叙年譜／著作目録(終戦以降)／北條秀司作品上演年表／お礼の



言葉

わが歳月―終戦まで―

昭和56年5月20日 日本放送出版協会 B5判 六五三頁 九、

五〇〇円 函入 帯 造本設計(粕谷弘)

§わが歳月／あとがき

京・四季の旅情

昭和56年7月13日 淡交社 B6判 二三七頁 一、二〇〇円

§京・四季の旅情

エトランゼ紀行

昭和56年10月10日 北斗社 B5判 一一二頁 一、〇〇〇円(奥

付定価無記載) 写真(川崎吉蔵・北條美智留) イラスト(加

藤秀雄・高須賀優) イラストマップ(坂本俊光)

§スコットランドまで／ウィーンの森／パリ郊外ミレー村／ハム

レットのお城／アラビア砂漠のキャパレー／王家の谷の泥棒村／

アムステルダム運河／トルコのアンカラ／アラビヤナイトの町

／ペルセポリスの廢墟／東西ベルリンの哀別／森の都キエフ／歎

きの古都ブラハ／ポーランドの悲しき首都／白夜のレニングラー

ド／モスクワのゆめ／ベイルート海岸町／シンガポール赤道／ザ

ルツブルグの古城／ビールのミュンヘン／アンコール遺跡／ギリ

シャのアテネ／ポンペイとナポリ／北京への思慕／アルプスの登

山電車／(あとがき)

祭りの笛

昭和57年1月15日 北斗社 B5判 一二七頁 一、〇〇〇円

口絵(奥天竜の遼山祭り・林悌三)

§「祭事年表」／群馬少林山の遼磨市／大磯のサイト焼／川原湯

の湯かけ祭り／岡崎滝山寺の鬼祭り／奥三河黒沢田楽／尾張国府

宮の難追神事／近江八幡二つの火祭り／薬師寺の花会式／長浜の

曳山祭り／筑摩の鍋冠祭り／能登川の神輿下ろし／当麻寺の練供

養／大和農村の野神祭り／古座川の舟祭り／阿南和合の念仏踊り

／信濃別所の岳の幟／由比ヶ浜の河童祭り／利根川の水神祭／筑

波山の藝祭り／秋田の竿燈／佃島の佃祭り／松本の盆々と音山様

／戸隠のお宣澄踊り／佐久望月の禰祭り／小田原秋葉山火伏呪法

／足柄路の除夜詣／(あとがき)

おまつりきちがい

昭和57年4月30日 北斗社 B5判 一二六頁 一、〇〇〇円

扉の写真(京都鳴滝大根寺にて祭友大崎史郎と)

§「祭事年表」／湖北のおこない／三上山の籠の火祭り／三浦岬

のオンベ焼き／金剛山下の大火焚／王子のタコ市／三河湾燻豆の

火祭／横手のカマクラ／大曲の雪中綱曳／上州玉村の壘つけ祭り

／鹿島の祭頭祭／清涼寺の嵯峨狂言／向島木母寺の梅若祭り／陸

奥のキリスト祭り／浅草はおずき市／佃島の盆踊り／備濃石尊の  
火祭り／箱根権現竜神祭り／大船田圃のお祭り／羽後西馬音内の  
亡者踊り／唐招提寺無月の茶会／浅間の湯の松明祭り／奥州二本  
松の提灯祭り／妙義の獅子舞／吉原の酉の市／除夜の鐘いろいろ  
／横浜港の除夜の笛／北條秀司祭り紀行文一覧表

夜の秋

昭和57年8月8日 北斗社 B5判 一二七頁 一、〇〇〇円  
絵(林悌三)

§出雲崎にて／真夜中の恐山／春愁記／北京の秋／飛鳥の寺／秋  
出水／テヘランと沙漠都市／三月十日の大空襲／山家日記／ハル  
ピンの秋／兎と亀／奥日光／淀君の隠れ薙／嵯峨野／イタリヤの  
地震／久美の死／欧羅巴のタクシー／お水取りの頃／奥みちのく  
の祭り／花冷え／春宵微醺／老獣記／夜の秋／京の四季(雪しぐ  
れ一月／壬生菜二月／日脚のお三月／狐曇り四月／若葉闇五月／  
梅雨曇六月)お祭りぬけ七月／六斎踊り八月／菖見舞九月／女郎  
花十月／ぬく酔十一月 大つごもり十二月)

愛知の祭り紀行

昭和57年8月29日 中日新聞本社 B6判 二一九頁 一、三〇〇円

§奥三河の花祭り／西尾のてんでこ祭り／三河山狭の黒沢田楽／

岡崎滝山寺の鬼祭り／尾張国府宮の人身御供／豊橋の鬼祭り／三  
河湾鳥羽の火祭り／尾張の男女祭り／牛久保のうなごうじ祭り／  
熱田神宮のおほほ祭り／津島の水郷神事／木曾川畔の虫送り／豊  
浜の鯛まつり／奥三河の夜念仏／乗本万燈／宿玄原の火踊り／一  
色の大提灯祭り／設楽参候祭り／「愛知の祭り紀行一覧表」／あ  
とがき

北條秀司自選戯曲集

昭和57年11月7日 北斗社 発行者(北條秀司さんの傘寿を祝う  
会) B5判 一、〇六八頁 一万円 函入

§口絵写真 華やかな夜景／高砂／歳月／姥子の湯／波の鼓／山  
鳩／太夫さん／片恋／智恵子抄／生々流転／白鳥の死／祇園囃子  
／京舞／物いわぬ雲／江戸紫／おもかげ曾我／沙羅の花／夜明け  
／寝白粉／和泉式部／建礼門院／女優／鳥獣戯面絵巻／女親分／  
返らぬ春／花魁草／深謝の言葉

北條源氏

昭和60年1月15日 青英舎 A5判 四七九頁 二、八〇〇円  
挿画(林悌三) 帯付

§第一話 空罫／第二話 夕顔／第三話 葵の上／第四話 六條  
御息所／第五話 藤壺／第六話 臘月夜／第七話 明石の姫上／  
第八話 明石の姫下／第九話 花散里／第十話 紫の上／第十一

話 末摘花／第十二話 落葉の宮／第十三話 浮舟／北條源平ロ  
ディ／放送記録／北條源氏小史／あとがき

演劇太平記(一)

昭和60年9月30日 毎日新聞社 B6判 三〇二頁 一、六〇〇  
円 帯付

§その一 焼け野原に立って／その二 女優を駅まで送らせる／その  
三 敗戦国民へ祭り囃子／その四 通行止めしてランデブー／その五  
「王将」のはじまり／その六 将棋の神々泣く／その七 関西名人に  
祭り上げ／その八 統王将暗礁に／その九 将棋盤で沢庵を／その十  
文楽事件の大序／その十一 文楽座の友情／その十二 文楽事件の修  
羅場／その十三 文楽事件の腹切り場／その十四 時の氏神山城少掾  
／その十五 キティ台風で三越泊り／その十六 山霧の深い晩／その  
十七 新作好きの大谷松竹社長／その十八 芸術的な庶民劇を／その  
十九 井上正夫の自殺未遂／その二十 社会の落ち葉／その二十一 岡  
田嘉子の恩／その二十二 足爪を剪ってやる／その二十三 市川翠扇  
の爛漫性／その二十四 菊田一夫と割増し人生／その二十五 殺者の  
人間研究／その二十六 赤い夕日の湖州へ／その二十七 大陸の武装  
花嫁／その二十八 天高き日当たる／その二十九 くだらない挿話／  
その三十 東宮大佐劇異変／その三十一 原野の人に謝罪／その三十  
二 老獅子奮迅／その三十三 箱根の一夜／その三十四 幽霊がでた放

送局／その三十五 殺人外科の話／その三十六 高地の霧の音／そ  
の三十七 信濃乙女の死／その三十八 丑の刻詣りの近代化／その三  
十九 真蕨ヶ原の女狐／その四十 女よりも女らしい／その四十一 人  
妻と真夏の一夜／その四十二 舟橋源氏と北條源氏／その四十三 彦  
根城の楽々園／その四十四 秋近き湖／その四十五 芸術祭お流れ／  
その四十六 世紀の大ドラマ放送／その四十七 二人の大老／その四  
十八 国立劇場大騒ぎ／その四十九 可笑しかった川開き中継

注1 他に「わが青春時代」一冊があるが未調査である。

2 昭和二十年二月、「鬼の湯」(高山書院)、「だんじり囃  
子」(三香書院)の二冊の戯曲集が製本中であつたが、空襲  
で焼失した、と「北條秀司自選戯曲集」(昭和54年10月1日  
発行)の「自叙年譜」にある。

二、編 著

宮崎春昇自伝

昭和29年6月15日 演劇出版社 A5判 二五三頁 五〇〇円

\*あとがき(252～253頁)

八木隆一郎追想

昭和43年10月15日 北斗社 A5判 三〇三頁 五〇〇円

\*除幕式(252～261頁)

三、再録書

九四

國民娛樂脚本集——素人に出来る芝居の本 第二輯

昭和15年10月22日・国民精神總動員本部・価格未詳 \*おふくろ

(94~110頁)

現代戯曲選集 第一巻

昭和26年6月15日・河出書房・二五〇円 \*王将(73~113頁)

ラジオ小劇場脚本選集 第五巻

昭和27年6月1日・宝文館 日本放送協会編・一八〇円 \*狸ば

やし(173~190頁) 付・解説(無署名)

新選現代戯曲 第四巻

昭和27年11月20日・河出書房・二五〇円 \*霧の音(197~212頁)

・小伝(197頁)・作の意図その他—演出覚え書—(293~293頁)

一九五三 戯曲代表選集1

昭和28年4月20日・白水社 日本文芸家協会編・三八〇円 \*狐

と笛吹き(125~117頁)

一九五三年 戯曲代表選集A(演劇年鑑V)

昭和28年6月30日・早川書房・日本演劇協会編・三六〇円 \*女

将(253~301頁)

年刊ラジオ・ドラマ 第一集

昭和28年11月10日・宝文館・価格未詳 \*狐と笛吹き(129~155頁)  
・作者のことは(155~155頁)

一九五四 戯曲代表選集2

昭和29年5月10日・白水社 日本文芸家協会編・四〇〇円 \*麦

踏み(291~305頁)

年刊ラジオ・ドラマ 一九五四年版・第二集

昭和29年8月25日・宝文館・二六〇円 \*雨夜(119~150頁)・作

者のことは(149~150頁)

年刊戯曲1

昭和29年11月5日・宝文館・三二〇円 \*浮舟(1~63頁)・作

者のことは(63~63頁)

NHK放送劇選集 第二集

昭和30年3月22日・日本放送出版協会・五五〇円 \*防風林(277

~295頁)・解説(森永武治)・山霧の深い晩(189~202頁)・解説

(森永武治)

年刊ラジオ・ドラマ 第三集

昭和30年5月25日・宝文館・日本演劇協会編・二六〇円 \*空蟬

(19~43頁)・作者の言葉(43~43頁)

年刊戯曲2

昭和30年8月5日・宝文館・三五〇円 \*波の鼓(315~319頁)

現代戯曲選集 10

昭和31年1月10日・白水社・三八〇円 \* 閣下(9)46頁)・解説(茨木憲)

NHK放送劇選集 第三集

昭和31年3月22日・日本放送出版協会・五五〇円 \* 高砂(11)329頁)・解説(森永武治)

戯曲代表選集 4

昭和31年3月25日・白水社・四〇〇円 \* 山鳩(85)131頁)

年刊戯曲 3

昭和31年6月10日・宝文館・日本演劇協会編・五五〇円 \* 太夫さん(97)169頁)

秘めたる旅路——一人紀行——

昭和43年3月25日・日本交通公社出版事業部・四八〇円 \* 邪燈の籠る遠山谷(頁未詳)

現代日本戯曲大系 第四卷

昭和46年8月31日・三一書房・三、八〇〇円 \* 松川事件(25)289頁)

日本シナリオ大系 2

昭和48年12月25日・シナリオ作家協会・マルヨンプロダクションシナリオ文庫・初版価格未詳 \* 王将(107)134頁)・昭和49年

9月1日の第二刷は三、二〇〇円・作者(伊藤大輔)・原作(北條秀司)

四、監修書

風雲児沢田正二郎

昭和49年10月3日・青英舎・一八〇〇円 \* 樋口十一著

五、戯曲・小説

†印は未確認を示す

大正9年(一九二〇年) 18歳

歌劇「コロンプスの遠征」(「宝塚少女歌劇」・7月18日・第18脚

本集・12)22頁)

\* 筆名「室町銀之助」

昭和9年(一九三四) 32歳

地震(「舞台」・3月1日・第5巻3号)†

晴夜(「舞台」・10月1日・第5巻10号)†

昭和10年(一九三五) 33歳

廊近く(「舞台」・6月1日・第6巻6号・78)94頁)

昭和11年(一九三六) 34歳

大寒(「舞台」・2月1日・第7巻2号)†

表形式前後（「舞台」・11月1日・第7巻11号）↑

昭和12年（一九三七）35歳

喧嘩寺夜話（「舞台」・3月1日・第8巻3号）↑

丸の内英雄伝（「舞台」・8月1日・第8巻8号）↑

昭和13年（一九三八）36歳

愉快な先生達（「舞台」・1月1日・第9巻1号）↑

戦陣訓（「東京劇場」・2月1日・巻号なし）

昭和14年（一九三九）37歳

ナリン殿下（「舞台」）↑

春星夫婦（「舞台」・12月1日・第10巻12月号・2）31頁

昭和15年（一九四〇）38歳

閣下（「舞台」・1月1日・第11巻1号）↑

昭和16年（一九四一）39歳

北国日和（「国民演劇」・3月1日・第1巻1号・75）69頁

丹那隧道（「大衆文芸」・3月1日・第3巻3号）↑

歲月（「日の出」・6月1日・第10巻6号）↑

海女（「国民演劇」・7月1日・第1巻5号・2）26頁

雨夜（「日の出」・8月1日・第10巻8号）↑

解氷期（「日の出」・10月1日・第10巻10号）↑

昭和17年（一九四二）40歳

解氷期（「国民演劇」・1月1日・第2巻1号・2）33頁

高梁風（「開拓」・2月1日・第6巻2号・117）117頁

丹那隧道（「国民演劇」・4月1日・第2巻4号・2）49頁

千利休（「大衆文芸」・4月1日・第4巻4号・94）113頁

東宮大佐（「国民演劇」・10月1日・第2巻10号・2）34頁

山彦（「国民演劇」・11月1日・第2巻11号・25）42頁

昭和18年（一九四三）41歳

高砂（「国民演劇」・1月1日・第3巻1号・31）57頁

国境近く（「現代演劇」・9月1日）↑

鬼の湯（「国民演劇」・10月1日・第3巻10号・2）24頁

ビハリ・ボース夫妻（「現代演劇」・10月1日）↑

昭和19年（一九四四）42歳

氷島の人々（「青年」・8月1日・38）43頁・「青年」女子版

同年同月号・36）41頁。

昭和21年（一九四六）44歳

雨後（「平凡」・6月5日・第2巻5号・56）64頁

歲月（「日本演劇」・9月1日・第4巻8号・46）63頁

昭和22年（一九四七）45歳

恋文（「演劇人」・5月15日・第5号・3）42頁

お祭左平（「舞台」・7月1日・第12巻1号）復刊第1号）3）

14頁）\*「だんじり囃子」の改稿。

王将―坂田三吉傳―（「日本演劇」・8月1日・第5巻5号・30）

62頁)

波止場の風四段 (「九州演劇」・9月20日・第2巻8・9合併号

・1) 33頁)

昭和23年 (一九四八) 46歳

終列車の客一幕 (「舞台」・4月20日・第13巻1号・1) 15頁)

文楽 (「日本演劇」・7月1日・第6巻7号・34) 63頁)

昭和24年 (一九四九) 47歳

若き日の泥ね (「ロマンス」・3月1日・第4巻3号・62) 67頁・画

・加藤敏郎)

王将坂田三吉傳―第二部― (「日本演劇」・6月1日・第7巻6

号・58) 95頁)

続王将 (「面白倶楽部」・7月1日・第2巻7号・90) 105頁)

信濃乙女 (「ロマンス」・8月1日・第4巻8号) †

昭和25年 (一九五〇) 48歳

春の果実 (「婦人倶楽部」・4月1日・第31巻4号・200) 217頁)

防風林 (「悲劇喜劇」・7月1日・第4巻7号・57) 77頁)

終篇王将 (「面白倶楽部」秋の臨時増刊号) †

昭和26年 (一九五一) 49歳

火山脈 (「富士」・1月) 2月・連載2回) †

王将第三部 (「舞台」・1月5日・第4号・2) 40頁)

わたしは魔女です (「週刊朝日」・1月14日) 6月24日・第56巻3

号) 第56巻26号・連載24回・絵・御正伸)

戯曲 王将 (第三部) (「波濤」・3月1日・第3号)

情死 (「サンデー毎日」・7月1日・涼風特別号・48) 54頁)

浮舟 (源氏物語より) (「婦人公論」・9月1日・412号・171) 198頁)

霧の音 (「悲劇喜劇」・12月1日・第5巻12号・50) 98頁)

昭和27年 (一九五二) 50歳

暮春 (「婦人公論」・1月新年増刊号) †

誰が死ぬものか (「面白倶楽部」・1月) †

狐と笛吹き (「演劇界」・5月1日・第10巻5号・76) 88頁)

啄木鳥 (「週刊朝日」・9月新秋号) †

戯曲 井伊大老 (「面白倶楽部」・12月1日・第5巻13号・304) 316

頁・画・木村莊八)

昭和28年 (一九五三) 51歳

死ぬほど (「新女苑」・1月1日) 12月1日・第17巻1号) 第17巻

12号・連載12回・画・北川実)

荒城の月 (「面白倶楽部」・4月1日) †

麦踏み (「悲劇喜劇」・4月1日・第7巻4号・89) 100頁)

芦刈 (「キング」・10月1日・第29巻12号・74) 93頁)

昭和30年 (一九五五) 53歳

天狗騒動 (「小説倶楽部」・5月) †

栗山大膳 (「面白倶楽部」・12月) †

山鳩（「新劇」・12月1日・第2巻12号・47〜79頁）

昭和31年（一九五六）54歳

太夫さん（「現代劇」・1月1日・第2巻1号・125〜165頁）

高村光太郎作品より 戯曲智恵子抄（「婦人公論」・6月1日・第

41巻6号・78〜107頁・画・木村莊八）

博多小女郎浪枕（「近松名作集」日本国民文学全集第13巻）・8

月20日・河出書房・131〜148頁）\*現代語訳

傾城反魂香（「近松名作集」日本国民文学全集第13巻）・8月20

日・河出書房・45〜75頁）

昭和32年（一九五七）55歳

「源氏物語浮舟」シナリオ抄（「別冊近代映画」・6月5日・巻号

数未詳・132〜138頁）

防風林（「新劇」・7月10日・第4巻9号・98〜158頁）\*収載作品

解説（堀江史朗）

昭和34年（一九五九）57歳

朱雀郎の鬼（「テレビ・ドラマ」・11月1日・第1巻3号・72〜80

頁）

昭和36年（一九六一）59歳

傾城反魂香（「近松名作集」日本文学全集）・3月10日・河出書

房新社・67〜111頁）

昭和40年（一九六五）63歳

修羅（「舞台劇」・8月・日付なし・創刊号・2〜66頁）

昭和41年（一九六六）64歳

明治の雪（「舞台劇」・1月・日付なし・第2号・頁数記載なし）

源氏絵巻（「舞台劇」・5月・日付なし・第3輯・頁数記載なし）

昭和42年（一九六七）65歳

ウィンの森（「舞台劇」・5月・日付なし・第4輯・頁数記載なし）

昭和44年（一九六九）67歳

建礼門院（「歌舞伎」・4月1日・第1巻4号・204〜271頁）

昭和45年（一九七〇）68歳

鳥獣戯畫（「演劇界」・9月1日・第28巻10号・32〜36頁）

昭和46年（一九七一）69歳

戯曲源氏物語 三部（「東宝」・11月1日・12月号・巻号なし・53

〜119頁）

昭和47年（一九七二）70歳

平家物語 建礼門院（「エクセル」・6月1日・第5巻2号・89〜

95頁）

昭和52年（一九七七）75歳

旅役者お梅（「悲劇喜劇」・2月1日・第30巻2号・97〜133頁）

昭和55年（一九八〇）78歳



妾（「悲劇喜劇」・5月1日・第33巻5号・109～153頁）

昭和58年（一九八三）81歳

真葛ヶ原 藤十郎夜話（「演劇界」・3月1日・第41巻3号・82～

89頁）

## 六、エッセイ

昭和11年（一九三六）34歳

ちぬ鯛（「食通」・5月1日・第4巻5号・28～29頁）

十五文の足袋（「食通」・10月1日・第4巻11号・38～40頁）

昭和12年（一九三七）35歳

「表形式前後」合評会（「舞台」）十

表形式前後は幸福（「御園座」・4月1日・巻号なし・20～20頁）

昭和13年（一九三八）36歳

「霖雨」について（「歌舞伎新聞」・7月1日）

昭和15年（一九四〇）38歳

拝啓 島田閣下（「大阪新聞」・3月7日）

「しぶとい女」に就て（「有楽座」・12月4日・巻号なし・3～3頁）

昭和16年（一九四一）39歳

言葉への愛情を（「国民演劇」・3月1日・第1巻1号・162～163頁）

吉日（「新潮」・4月1日・第38巻4号・93～94頁）

歳月（「東宝」・5月1日・巻号なし・33～35頁）

各劇團文藝部を囲む座談会（「国民演劇」・8月1日・第1巻6号

・102～113頁）

昭和17年（一九四二）40歳

丹那隧道に就て（「月刊前進座」・4月10日・巻号なし・頁数未詳）

「山彦」について（「帝国劇場」・10月7日・巻号なし・12～13頁）

東宮大佐について（「東京宝塚劇場」・10月7日・巻号なし・4～

5頁）\*のち「大阪北野劇場」・11月1日・巻号なし・3～3頁

に転載。

移動演劇脚本（「東京新聞」11月13日朝刊・4～4頁）

作者の言葉（「東京宝塚劇場八風雪二十年」・12月11日・巻号な

し・17～18頁）

昭和18年（一九四三）41歳

あとがき（亀屋正徳著「山鳩の宿」・2月20日・日本放送出版協会

・頁数未詳）

マニラ亭に就て（「東京宝塚劇場ハボース夫妻」・9月1日・巻

号なし・6～9頁）

鬼の湯感謝文（「国民演劇」・10月1日・第3巻10号・24～24頁）

終刊雑感（「国民演劇」・10月1日・第3巻10号・52～53頁）

「丹那隧道」前後（「日本演劇」・12月1日・第1巻2号・10～11頁）

昭和19年（一九四四）42歳

演劇参戦―悔なき年なれかし（「文学報国」・1月10日・第14号・1～1頁）

1～1頁）

劇界中央本部の設置（「日本演劇」・3月1日・第2巻3号・9～10頁）

10頁）

悉く戦列へ（「文学報国」・4月20日・第23号・1～1頁）

処女作と岡本先生（「演劇界」・9月1日・第2巻9号・36～36頁）

昭和21年（一九四六）44歳

西鶴―大阪の友人達に（「演劇人」・4月30日・第1号・5～7頁）

京の祭（「有楽座へぼんぼん」・6月6日・巻号なし・6～6頁）

\*のち「京舞台」・昭和24年10月1日・第3巻10号・16～16頁に

転載。

一箇月（「演劇人」・8月15日・第3号・6～10頁）

昭和22年（一九四七）46歳

屋上の役者（「舞台」・2月1日・第12巻3号・43～44頁）

王将の記（「日本演劇」・5月1日・第4巻8号・62～63頁）

戀文の記（「演劇人」・5月15日・第5号・43～45頁）

「王将」に就て（「有楽座」・6月・日付なし・巻号なし・3～3

頁）\*のち「京舞台グラフ」・昭和23年8月31日・巻号なし・3～3頁に転載。

京のゆめ（「葎間」・11月5日・第2巻11号・14～16頁）

王将続篇私は書く（「大阪日日新聞」・11月22日）

昭和23年（一九四八）46歳

誓う（「上毛新聞」・3月2日）

文楽訂正問題（「大阪日日新聞」・6月14日）\*談話

文楽座（「読売新聞」・6月23日・朝刊）

文楽の思ひ出（「新橋演舞場」・7月3日・巻号なし・11～12頁）

「文楽」について（「芝居」・7月5日・巻号なし・7～7頁）

「文楽」餘事（「文楽」・9月1日・巻号なし・10～10頁）

文楽の奇蹟（「東京タイムス」・9月19日）

「果実」偶感（「東京宝塚劇場」・10月8日付未詳）7～7頁）

昭和24年（一九四九）47歳

わらひばなし―「王将」騒ぎのこと（「日本演劇」・2月1日・第

7巻2号・33～36頁）

あとがき（「日本演劇」・6月1日・第7巻6号・95～95頁）

「王将」と「文楽」（「教育と社会」・6月1日・第4巻5号・45

～46頁）

昭和25年（一九五〇）48歳

死顔（「幕間」・4月1日・第5巻4号・72～73頁）

おやち（「演劇界」・4月1日・第8巻4号・27～28頁）

混沌の辞（「舞台」・9月10日・第2号・64～64頁）

座談会 現代演劇の諸問題（「悲劇喜劇」・11月1日・第4巻11号

8～24頁）

坂田翁への手紙（「京舞台」・11月1日・第4巻11号・14～14頁）

\*のち「歌舞伎」・12月△日付未詳▽・第5巻12号・19～19頁、

「新橋演舞場」・昭和26年2月2日・巻号なし・22～23頁に転載。

昭和26年（一九五二）49歳

王将のことなど（「演劇界」・2月1日・第9巻2号・50～51頁）

後記（「舞台」・3月1日・第5号・64～64頁）

後記（「舞台」・5月1日・第6号・64～64頁）

ふるさと（「演劇界」・8月1日・第9巻8号・31～32頁）

安楽死（「新橋演舞場へだんじり囃子▽」・8月3日・巻号なし・

18～19頁）

昭和27年（一九五二）50歳

今昔物語のゆめ（「新橋演舞場へ女将▽」・6月4日・14～15頁）

霧の音（「新国劇」・9月1日・第16号）

昭和28年（一九五三）51歳

大村嘉代子さんのこと（「演劇界」・6月1日・第11巻6号・79～

79頁）

愚かなる京都（「毎日新聞」・8月30日・夕刊）

「井伊大老」に就て（「京舞台」・9月12日・巻号記載なし・14～

14頁）\*のち「明治座」・10月・日付なし・巻号なし・22～22頁

に転載。

野心（「御園へ井伊大老▽」・10月31日・巻号なし・25～25頁）\*

のち「歌舞伎」・12月2日・第8巻1号・13～13頁に転載。

芦刈（「新橋演舞場」・11月1日・巻号なし・3～3頁）\*のち「新

橋演舞場」・昭和42年4月1日・巻号なし・64～65頁に転載。

昭和29年（一九五四）52歳

わが新劇時代（「朝日新聞」・1月17日朝刊・5～5面）

お蝶ちゃん（「新橋演舞場へ初松魚▽」・4月1日・巻号なし・4

～4頁）\*のち「新橋演舞場」・昭和42年4月1日・巻号なし・

64～65頁に転載（但し、標題「初松魚にちなんで お蝶ちゃん（一）

（一）」）。

昭和30年（一九五五）53歳

妄執（「歌舞伎座」・2月24日・巻号なし・13～13頁）

みちのくのゆめ（「新橋演舞場へみちのくの祭り▽」・4月1日・

巻号なし・4～4頁）

山鳩について（「演劇界」・11月1日・第13巻12号・89～89頁）

昭和31年（一九五六）54歳

砂文字（「幕間」・1月1日・第11巻1号・56～57頁）

狐と笛吹きについて（「産経ホール」・1月18日・巻号なし・8～

8頁）

思いうかぶま（「演劇界」・2月1日・第14巻2号・78～79頁）

浅間高原から（「大阪歌舞伎座入山鳩」・4月1日・巻号なし・

7～7頁）

十年目の片恋（「明治座」・4月8日付未詳）・巻号なし・13～13

頁）

有難う、関君―幕間十周年に寄せる―（「幕間」・5月1日・第11

巻5号・62～63頁）

わたしの大川端―江戸は生きている―（「旅」・7月1日・第30巻

7号・104～106頁）

明治座社長の死を悼む（「演劇界」・8月1日・第14巻9号・75～

75頁）

なつかしき江戸の残照―佃島思慕の記―（「旅」・9月1日・第30

巻9号・106～109頁）

明石光代のことなど（「演劇界」・12月1日・第14巻13号・79～79

頁）

北條秀司久々の放送劇（「ラジオ・テレビ」・12月26日）・\*談話

舞踊劇について（「新橋演舞場入狐と笛吹き」・12月・日付未詳

・巻号なし・10～10頁）

昭和32年（一九五七）55歳

劇作二十年（一）（「幕間」・1月1日・第12巻1号・91～93頁）

北條秀司氏に聞く（「西川通信」・1月25日・第2号）

素晴らしい独創力（「歌舞伎座入いとはん」・1月28日・巻号なし

・14～14頁）

劇作二十年（二）（「幕間」・2月1日・第12巻2号・79～81頁）

劇作二十年（三）（「幕間」・3月1日・第12巻3号・79～81頁）

俎板の上で（「新橋演舞場入生々流転」・4月1日・巻号なし・

・29～29頁）

劇作二十年（四）（「幕間」・5月1日・第12巻5号・79～81頁）

劇作二十年（五）（「幕間」・6月1日・第12巻6号・73～75頁）

劇作二十年（六）（「幕間」・7月1日・第12巻7号・77～79頁）

劇作二十年（七）（「幕間」・8月1日・第12巻8号・73～74頁）

秋草物語という作品（「演劇界」・9月1日・第15巻10号・48～48

頁）

三代目は誰だ（「新国劇四十周年記念」・10月3日・発行所未詳・

22～22頁）・\*非売品。

狐のいる軽井沢高原の湯―「山鳩」執筆エピソード―（「旅」・11

月1日・第31卷11号・65〜67頁)

劇作二十年(八)〔「幕間」・11月1日・第12卷11号・77〜79頁〕

こんなこともある(発表紙名未詳・11月17日)

劇作二十年(八)〔「幕間」・12月1日・第12卷12号・69〜71頁〕

\* 以下連載回数を誤記。

昭和33年(一九五八)56歳

劇作二十年(九)〔「幕間」・1月1日・第13卷1号・116〜117頁〕

劇作二十年(十)〔「幕間」・2月1日・第13卷2号・66〜67頁〕

北京遊記〔「演劇界」・2月1日・第16卷2号・108〜111頁・絵・吉

田謙吉)

劇作二十年(十一)〔「幕間」・3月1日・第13卷3号・85〜86頁〕

北京遊記Ⅱ〔「演劇界」・3月1日・第16卷3号・108〜111頁・絵・

吉田謙吉)

みちのくの雪のまつり〔「旅」・4月1日・第32卷4号・98〜100頁〕

劇作二十年(十二)〔「幕間」・4月1日・第13卷4号・84〜85頁〕

北京遊記Ⅲ〔「演劇界」・4月1日・第16卷4号・99〜101頁〕

門外者として〔「歌舞伎座へうきくさ艸子」・4月日付未詳・巻

号なし・23〜23頁)

劇作二十年(十三)〔「幕間」・5月1日・第13卷5号・82〜83頁〕

北京遊記Ⅳ〔「演劇界」・5月1日・第16卷5号・118〜120頁)

「四十雀」余談〔「新橋演舞場」・5月3日・巻号なし・7〜7頁)

往事茫茫〔「新橋演舞場へ太夫さん」・5月・日付未詳・巻号な

し・1〜1頁)

劇作二十年(十四)〔「幕間」・6月1日・第13卷6号・86〜87頁〕

北京遊記(終)〔「演劇界」・6月1日・第16卷6号・74〜75頁〕

劇作二十年(十五)〔「幕間」・7月1日・第13卷7号・84〜85頁〕

劇作二十年(十六)〔「幕間」・8月1日・第13卷8号・77〜78頁〕

劇作二十年(十七)〔「幕間」・10月1日・第13卷10号・79〜81頁〕

葛の葉ばなし〔「新橋演舞場」・11月1日・巻号なし・16〜16頁〕

劇作二十年(十八)〔「幕間」・11月1日・第13卷11号・80〜81頁〕

雑談〔「毎日ホールへいとはん」・11月28日・巻号なし・12〜13

頁) \* のち「新橋演舞場」・昭和34年2月4日・巻号なし、23〜

23頁に転載。

新作の佈き〔「文楽人形浄瑠璃新作発表会」・11月28日・巻号なし

・1〜1頁) \* 於NHK大阪中央放送局

劇作二十年(十九)〔「幕間」・12月1日・第13卷12号・88〜89頁〕

昭和34年(一九五九)57歳

劇作二十年(二十)〔「幕間」・1月1日・第14卷1号・91〜92頁〕

雪手前〔「明治座」・1月2日・巻号なし・21〜21頁〕

「松川事件」を覗て下さる人達へ〔「明治座」・2月1日・巻号な

し・7〜7頁)

劇作二十年(二十一) (「幕間」・2月1日・第14巻2号・69〜71

頁)

劇作二十年(二十二) (「幕間」・4月1日・第14巻4号・65〜67

頁)

劇作二十年(二十三) (「幕間」・5月1日・第14巻5号・60〜61

頁)

かぎりなき笑蒼 (「大阪城ペーシエント」天守閣絵巻)・5月27日

・巻号なし・4〜4頁)

劇作二十年(二十四) (「幕間」・6月1日・第14巻6号・57〜59

頁)

三つの焦点 (「演劇界」・6月1日・第17巻6号・60〜63頁) \*た

だし北條秀司/利倉幸一。各節標題(第一の焦点 天の声/第二

の焦点 積極的な発言を/第三の焦点 国立劇場問題の今後)

劇作二十年(二十五) (「幕間」・7月1日・第14巻7号・58〜60

頁)

ほめる (「明治座」船去来)・10月1日・巻号なし・6〜6頁)

\*のち「新歌舞伎座」・12月1日・巻号なし・27〜27頁に転載。

劇作二十年(二十六) (「幕間」・10月1日・第14巻10号・66〜67

頁)

昭和35年(一九六〇) 58歳

劇作二十年(二十七) (「幕間」・1月1日・第15巻1号・68〜69

頁)

劇作二十年(二十七) (「幕間」・2月1日・第15巻2号・81〜83

頁)

劇作二十年(二十八) (「幕間」・4月1日・第15巻4号・85〜87

頁)

浅間の掘野 (「歌舞伎座」浅間大名)・11月1日・巻号なし・10

〜10頁)

作家の倅せ (「毎日ホール」保名と璃の葉)・11月12日・巻号な

し・17〜18頁)

〔作品解説〕 (「歌舞伎座」油屋おしか)・11月27日・巻号なし

・8〜8頁)

昭和36年(一九六一) 59歳

新喜劇と「鬼の会」 (「中座」・1月2日・巻号なし・2〜2頁)

わが源氏 (「梅田コマ劇場」浮舟)・4月1日付未詳)・巻号な

し・25〜25頁)

走り書き (「東京宝塚劇場」紙屋治兵衛)・5月3日・巻号なし

・10〜11頁) \*のち「新歌舞伎座」・昭和37年1月2日・巻号な

し・16〜17頁)、「東京宝塚劇場」・昭和49年1月2日・巻号なし

・ 16 頁に転載。

銀座嫌い（「銀座百点」・ 8月1日・ 第80号・ 40 頁）

哀愁・ 私の好きな嵯峨野をあるく（「旅」・ 9月1日・ 第35卷10号

・ 56 頁）

伝統を新作の裡に（「幕間」・ 10月1日・ 第16卷10号・ 34 頁）

昭和37年（一九六二） 60歳

牧歌のムードあふれる上州路（「旅」・ 3月1日・ 第36卷3号・ 84

頁）

作者冥利（「新歌舞伎座へ心中紙屋川」・ 10月30日・ 巻号なし・

8 頁）

新国劇の「文楽」（「演劇界」・ 11月1日・ 第20卷12号・ 107 頁）

昭和38年（一九六三） 61歳

私の愛する京都 第一回（「旅」・ 1月1日・ 第37卷1号）↑

私の愛する京都 第二回（「旅」・ 2月1日・ 第37卷2号）↑

私の愛する京都 第三回（「旅」・ 3月1日・ 第37卷3号）↑

雑談（「新宿コマ劇場へ王将」・ 3月8日付未詳）・ 巻号なし・

38 頁） \* のち「南座」・ 4月1日・ 巻号なし・ 2 頁に転

載。

舞台劇への執念を（「演劇界」・ 4月1日・ 第21卷4号・ 21 頁）

私の愛する京都 第四回（「旅」・ 4月1日・ 第37卷4号）↑

私の愛する京都 第五回（「旅」・ 5月1日・ 第37卷5号）↑

私の愛する京都 第六回（「旅」・ 6月1日・ 第37卷6号）↑

朝がゆ・ 宵山・ 五位少将へ私の愛する京都 第七回（「旅」・

7月1日・ 第37卷7号・ 198 頁）

「炎の会」 「ほん」公演によせて（「名鉄ホール」・ 7月7日・ 巻

号なし・ 頁未詳）

幽霊館・ 送り火・ 地藏盆へ私の愛する京都 第八回（「旅」・

8月1日・ 第37卷8号・ 202 頁）

沙羅の花・ 雨月・ 巨椋池へ私の愛する京都 第九回（「旅」・

9月1日・ 第37卷9号・ 198 頁）

夜の灯・ 古電車・ 牛祭へ私の愛する京都 第十回（「旅」・

10月1日・ 第37卷10号・ 198 頁）

丹波栗・ お菊さん・ 貴船道へ私の愛する京都 第十一回（「旅」

・ 11月1日・ 第37卷11号・ 297 頁）

ゆく年・ 雪の客・ 七条新地へ私の愛する京都 第十二回（「旅」

12月1日・ 第37卷12号・ 170 頁）

昭和39年（一九六四） 62歳

初春の芝居（「銀座百点」・ 1月1日・ 第109号・ 28 頁）

花の名残り（「新橋演舞場」・ 3月1日・ 巻号なし・ 2 頁）

旅愁のみちのくひとり旅（「旅」・ 6月1日・ 第38卷6号・ 168 頁）

(頁)

山また山(「東京宝塚劇場△十七夜▽」・9月△日付未詳▽・巻号なし・24~24頁)

昭和40年(一九六五)63歳

雪しぐれ(「春燈」・1月1日・第20巻1号・10~11頁)

小さな花束(「大阪サンケイ会館△司法権・王将▽」・1月3日・巻号なし・17~17頁)

弔辞(「新橋演舞場△うすゆき川▽」・2月1日・巻号なし・2~3頁)

(3頁)

壬生菜(「春燈」・2月1日・第20巻2号・8~9頁)

日脚のぶ(「春燈」・3月1日・第20巻3号・8~9頁)

「浮舟」の稽古場で(「歌舞伎座」・3月31日・巻号なし・7~7頁)

大官人の夢(「新橋演舞場△源氏匂宮▽」・4月1日・35~36頁)

狐袋り(「春燈」・4月1日・第20巻4号・6~7頁)

笛めし(「春燈」・5月1日・第20巻5号・6~7頁)

梅雨燈(「春燈」・6月1日・第20巻6号・6~7頁)

佃窓い(「御園座△佃の渡し▽」・6月3日・巻号なし・23~23頁)

\*のち「新橋演舞場」・昭和41年9月1日・巻号なし・3~3頁に転載。

お祭りぬけ(「春燈」・7月1日・第20巻7号・6~7頁)

雑談(「明治座△女将▽」・7月6日・巻号なし・27~27頁)

ロシア文学の土壌を(「旅」・8月1日・第39巻8号・85頁)

戦後20年私の好きな舞台△京舞▽(「演劇界」・8月1日・第23巻8号・71~71頁)

「\*あとがき」(「舞台劇」・8月・日付なし・第1輯・頁未詳)

\*無題

六斎(「春燈」・8月1日・第20巻8号・6~7頁)

赤やんま(「春燈」・9月1日・第20巻9号・6~7頁)

女郎花(「春燈」・10月1日・第20巻10号・6~7頁)

閣下(「福岡市民芸術祭」・10月31日・巻号なし・19~19頁)

ぬく絆(「春燈」・11月1日・第20巻11号・6~7頁)

永遠に、日本のために(「小田原市民会館・劇団こゆるぎ座」・11月21日・巻号なし・1~1頁)

劇作家を育てるために―菊田一夫への反論―(「朝日新聞」・11月

29日夕刊)

大つごもり(「春燈」・12月1日・第20巻12号・6~7頁)

昭和41年(一九六六)64歳

「\*あとがき」(「舞台劇」・1月・日付なし・第2輯・頁未詳)

\*無題



通天閣ゴタゴタ(「新橋演舞場」・2月1日・巻号なし・33〜33頁)

「京舞」(「中座」・3月2日・巻号なし・2〜2頁)

演劇年鑑発刊に際して(「演劇年鑑1966」・4月1日・中央公

論事業出版・3〜4頁)

【\*あとがき】(「舞台劇」・5月・日付なし・第3輯・頁未詳)

八木隆一郎とわたし(「八木隆一郎戯曲選集」・5月12日・牧羊社

・326〜329頁)

修羅雑感(「明治座」・6月1日・巻号なし・15〜15頁)

女と迷信(「旅」・12月1日・第40巻11号・236〜240頁)

昭和42年(一九六七) 65歳

雪降りしきる火祭り△\*ふるさとの年中行事・1▽(「旅」・1月

1日・第41巻1号・220〜225頁)

山の湯(「春燈」・1月1日・第22巻1号・6〜9頁)

星凍る夜の田遊び△\*ふるさとの年中行事・2▽(「旅」・2月1

日・第41巻2号・220〜225頁)

春の雪(「春燈」・2月1日・第22巻2号・6〜9頁)

燃え狂う達陀の行法△\*ふるさとの年中行事・3▽(「旅」・3月

1日・第41巻3号・220〜226頁)

ミルミルカンカン(「春燈」・3月1日・第22巻3号・6〜8頁)

新国劇五〇年を語る(「コマスタジアム」・4月1日・巻号なし・

14〜19頁)

春の日永の念仏狂言△\*ふるさとの年中行事・4▽(「旅」・4月

1日・第41巻4号・220〜225頁)

納骨(「春燈」・4月1日・第22巻4号・6〜8頁)

源氏物語のパロディ(「文学」・5月1日・第35巻5号・79〜81頁)

生きている江戸のお神輿△\*ふるさとの年中行事・5▽(「旅」・

5月1日・第41巻5号・220〜226頁)

春風馬堤曲(「春燈」・5月1日・第22巻5号・6〜9頁)

和泉式部という上臈(「コマスタジアム」・6月1日・巻号なし・

3〜3頁)

茶の香漂う暗やみ祭△\*ふるさとの年中行事・6▽(「旅」・6月

1日・第41巻6号・220〜226頁)

飛騨路(「春燈」・6月1日・第22巻6号・6〜9頁)

新派のコンプレックス(「演劇界」・7月1日・第25巻7号・21〜

21頁)

白南風わたる水郷神事△\*ふるさとの年中行事・7▽(「旅」・7

月1日・第41巻7号・220〜226頁)

川開き(「春燈」・7月1日・第22巻7号・6〜10頁)

猿が見ている深山の祭△\*ふるさとの年中行事・8▽(「旅」・8

月1日・第41巻8号・220〜226頁)

終戦記（「春燈」・8月1日・第22巻8号・7～10頁）

潑刺（「新橋演舞場」鬼の少将夜長詣）・9月・日付なし・巻号なし・15～15頁）

暴風雨下の裸踊りへ\*ふるさとの年中行事・9▽（「旅」・9月1

日・第41巻9号・220～225頁）

キッス（「春燈」・9月1日・第22巻9号・6～9頁）

南国の空の下唐蛇踊るへ\*ふるさとの年中行事・10▽（「旅」・10月1日・第41巻10号・220～226頁）

浮名（「春燈」・10月1日・第22巻10号・6～9頁）

稽古場で（「新橋演舞場」美しき落日▽）・10月3日・巻号なし・24～25頁）

落城を弔う狸追いの灯へ\*ふるさとの年中行事・11▽（「旅」・11

月1日・第41巻11号・220～226頁）

多情犬（「春燈」・11月1日・第22巻11号・6～8頁）

現代歌舞伎感覚（「御園座」紙屋治兵衛▽）・11月2日・巻号なし・4～4頁）

夜をこめて遠山神楽へ\*ふるさとの年中行事・12▽（「旅」・12月

1日・第41巻12号・216～222頁）

除幕式（「春燈」・12月1日・第22巻12号・216～222頁）

〔\*無題〕（「私の人生遍歴・芸道―富崎春昇自伝―」・12月10日

・181～200頁）

昭和43年（一九六八）66歳

鬼走りへ\*まつり紀行・1▽（「春燈」・1月1日・第23巻1号・6～9頁）

作者の言葉（「梅田コマ劇場」智恵子抄▽）・2月1日・巻号なし

・8～9頁）

竹打ちへ\*まつり紀行・2▽（「春燈」・2月1日・第23巻2号・6～9頁）

早春の京都へ行く娘に（「旅」・3月1日・第42巻3号・97～101頁）

三九郎焼きへ\*まつり紀行・3▽（「春燈」・3月1日・第23巻3号・6～10頁）

新作家登場への期待（「毎日新聞」・3月18日夕刊）

浅間の殿様（「新橋演舞場」浅間追分▽）・4月1日・巻号なし・

5～8頁）

田遊びへ\*まつり紀行・4▽（「春燈」・4月1日・第23巻4号・6～9頁）

風揚げへ\*まつり紀行・5▽（「春燈」・5月1日・第23巻5号・

6～9頁）

蛙飛びへ\*まつり紀行・6▽（「春燈」・6月1日・第23巻6号・

6～9頁）

ねぶた八\*まつり紀行・7▽(「春燈」・7月1日・第23巻7号・

6〜10頁)

宵森ねぶた八\*まつり紀行・8▽(「春燈」・8月1日・第23巻8

号・6〜10頁)

私の一冊―閣下―(「毎日新聞」・8月25日)

野馬追い八\*まつり紀行・9▽(「春燈」・9月1日・第23巻9号

・6〜10頁)

鬼来迎八\*まつり紀行・10▽(「春燈」・10月1日・第23巻10号・

6〜11頁)

さんそう祭り八\*まつり紀行・11▽(「春燈」・11月1日・第23巻

11号・6〜11頁)

気ちがい祭八\*まつり紀行・12▽(「春燈」・12月1日・第23巻12

号・6〜11頁)

昭和44年(一九六九)67歳

新野のまつり(「歌舞伎」・1月1日・第1巻3号・31〜33頁)

春日野のおん祭八\*まつり紀行・13▽(「春燈」・1月1日・第24

巻1号・6〜10頁)

半七の生れた町(「新歌舞伎座八雪小袖▽」・1月20日・巻号なし

・40〜41頁)

京の鬼やらい八\*まつり紀行・14▽(「春燈」・2月1日・第24巻

2号・6〜10頁)

舞踊劇のたのしみ(「歌舞伎座八仇ゆめ▽」・3月1日・巻号なし

・14〜14頁)

おんまらさま八\*まつり紀行・15▽(「春燈」・3月1日・第24巻

3号・6〜11頁)

津軽の旅人(「新橋演舞場」・3月2日・巻号なし・4〜5頁)

同人閑談(「演劇界」・4月1日・第27巻4号・70〜82頁) \*座談

会。出席者・安藤鶴夫・北條秀司・戸板康二・浜村米蔵・利倉幸

一。

テンテコ祭八\*まつり紀行・16▽(「春燈」・4月1日・第24巻4

号・6〜10頁)

大原御幸(「歌舞伎座八建礼門院▽」・4月2日・巻号なし・3〜

3頁) \*のち「中日劇場」・昭和46年6月3日・巻号なし・28〜

28頁に転載。

オホホ祭八\*まつり紀行・17▽(「春燈」・5月1日・第24巻5号

・6〜9頁)

うなごうじ祭八\*まつり紀行・17▽(「春燈」・6月1日・第24巻

6号・6〜9頁)

\*以下連載回数を誤記。

“だんじり囃子”への郷愁(「御園座」・7月1日・巻号なし・5

〜5頁)

座間答へ\*まつり紀行・18▽(「春燈」・7月1日・第24巻7号・

6〜11頁)

沢田精神(誌名なし・7月20日・巻号なし・4〜4頁)・\*発行所∥

早稲田演劇博物館。

諸手船・上へ\*まつり紀行・19▽(「春燈」・8月1日・第24巻8

号・6〜10頁)

諸手船・下へ\*まつり紀行・20▽(「春燈」・9月1日・第24巻9

号・6〜9頁)

大川端(「歌舞伎座へ玉菊燈籠▽」・9月28日・巻号なし・2〜2

頁)

笑い祭へ\*まつり紀行・21▽(「春燈」・10月1日・第24巻10号・

6〜11頁)

なつかしい唄(「新橋演舞場へ女優▽」・11月1日・巻号なし・4

〜5頁)

非人面へ\*まつり紀行・22▽(「春燈」・11月1日・第24巻11号・

6〜9頁)

起こし太鼓へ\*まつり紀行・23▽(「春燈」・12月1日・第24巻12

号・6〜8頁)

昭和45年(一九七〇)68歳

三輪山の火めぐりへ\*まつり紀行・24▽(「春燈」・1月1日・第

25巻1号・6〜9頁)

弔辞(「演劇界」・2月1日・第28巻2号・107〜107頁)

奥能登のアエノコトへ\*まつり紀行・25▽(「春燈」・2月1日・

第25巻2号・6〜12頁)

雑談(「歌舞伎座へ浮舟▽」・3月1日・巻号なし・20〜20頁)

志摩半島の火祭りへ\*まつり紀行・26▽(「春燈」・3月1日・第

25巻3号・6〜12頁)

法隆寺の鬼追いへ\*まつり紀行・27▽(「春燈」・4月1日・第25

巻4号・6〜9頁)

浅草の亡者送りへ\*まつり紀行・28▽(「春燈」・5月1日・第25

巻5号・6〜9頁)

泉州石津のヤッサイホッサイへ\*まつり紀行・29▽(「春燈」・6

月1日・第25巻6号・6〜11頁)

磯城野の子出来おんだへ\*まつり紀行・30▽(「春燈」・7月1日

・第25巻7号・6〜10頁)

お網はんの嫁入りへ\*まつり紀行・31▽(「春燈」・8月1日・第

25巻8号・6〜12頁)

奥三河の夜念仏へ\*まつり紀行・32▽(「春燈」・9月1日・第25

巻9号・6〜11頁)

鳥獸戯面のモチーフ（「国立劇場」・9月23日・巻号なし・6〜7頁）

雑談（「新橋演舞場△明治の雪▽」・10月1日・巻号なし・18〜19頁）

湯沢の犬コマつり△\*まつり紀行・33▽（「春燈」・10月1日・第25巻10号・6〜10頁）

わがミュージカル（「東京宝塚劇場△夜な夜な中納言▽」・10月3日・巻号なし・4〜4頁）

富士吉田の火祭り△\*まつり紀行・34▽（「春燈」・11月1日・第25巻11号・6〜10頁）

三河の山の乗本万燈△\*まつり紀行・35▽（「春燈」・12月1日・第25巻12号・6〜9頁）

昭和46年（一九七二）69歳  
忘れ得ぬ四季の祭り（「旅」・1月1日・第45巻1号・65〜68頁）

男鹿半島の生剣△\*まつり紀行・36▽（「春燈」・1月1日・第26巻1号・6〜13頁）

見事な人（「歌舞伎座△八重山の歌▽」・1月28日・巻号なし・5〜5頁）

三浦三崎のチャッキラコ△\*まつり紀行・37▽（「春燈」・2月1日・第26巻2号・6〜8頁）

美濃路のヒンココ祭り△\*まつり紀行・38▽（「春燈」・3月1日・第26巻3号・6〜10頁）

炬ばたの話（「東京新聞」・3月23日〜4月29日・連載30回）↑  
淡路島の練り子祭り△\*まつり紀行・39▽（「春燈」・4月1日・第26巻4号・6〜12頁）

葵祭（「演劇界」・5月1日・第29巻5号・64〜65頁）

豊橋のタンキリ祭り△\*まつり紀行・40▽（「春燈」・5月1日・第26巻5号・6〜10頁）

一色の大提灯△\*まつり紀行・41▽（「春燈」・6月1日・第26巻6号・6〜8頁）

雑談（「歌舞伎座△恋の八汐路▽」・6月3日・巻号なし・10〜11頁）

古代ペルシヤへの思慕（「東京新聞」・6月23日夕刊）

新野の盆踊り△\*まつり紀行・42▽（「春燈」・7月1日・第26巻7号・6〜10頁）

終戦前後（「演劇界」・8月1日・第29巻8号・74〜84頁）  
大阪の夏の祭り△\*まつり紀行・43▽（「春燈」・8月1日・第26巻8号・6〜10頁）

信玄原の火踊り△\*まつり紀行・44▽（「春燈」・9月1日・第26巻9号・6〜11頁）

王将道徳（「新橋演舞場」・9月2日・巻号なし・4～5頁）

ポンペイとナポリ・その静寂と喧噪（「旅」・10月1日・第45巻10号・68～71頁）

上州大島の火とほし（「まつり紀行」・45頁）（「春燈」・10月1日・第26巻10号・6～9頁）

異國巡礼（「日本と世界の旅」・昭和46年～昭和48年・三年間連載）†

おそそ祭りへとへこの祭り（「まつり紀行」・46頁）（「春燈」・11月1日・第26巻11号・6～11頁）

雑談（「新橋演舞場（智恵子抄）」・11月3日・巻号なし・4～5頁）

序文（「西川鯉三郎」・12月1日・談交社・77～78頁）

信濃路の十日夜（「まつり紀行」・47頁）（「春燈」・12月1日・第26巻12号・6～8頁）

昭和47年（一九七二）70歳  
新派という園（「演劇界」・1月1日・第30巻1号・88～90頁）

中之條の鳥追い祭（「まつり紀行」・48頁）（「春燈」・1月1日・第27巻1号・6～9頁）

歳月（「新橋演舞場」・1月2日・巻号なし・5～6頁）  
新春芝居ばなし（「毎日新聞」・1月）†

褒様名の小正月（「まつり紀行」・49頁）（「春燈」・2月1日・第27巻2号・6～11頁）

雑談（「東京宝塚劇場（ドクトル机竜之助）」・2月3日・巻号なし・15～15頁）

〔\*無題〕（「大阪新聞」・2月17日）\*北條秀司談。  
雑談（「中座（閣下）」・3月1日・巻号なし・6～7頁）

面影消えぬ井上正夫（「演劇界」・3月1日・第30巻3号・64～69頁）

保呂羽山霜月神楽（「まつり紀行」・50頁）（「春燈」・3月1日・第27巻3号・6～11頁）

向島七福神めぐり（「まつり紀行」・51頁）（「春燈」・4月1日・第27巻4号・6～9頁）

女人政子（「歌舞伎座（北條政子）」・4月2日・巻号なし・4～5頁）

往事茫茫（「明治座（太夫さん）」・4月2日・巻号なし・4～5頁）

花冷え 気の若い翁男翁女たち（「読売新聞」・4月14日夕刊）  
向島七福神めぐり（続）（「まつり紀行」・52頁）（「春燈」・5月1日・第27巻5号・6～9頁）

若狭のお水送り（「まつり紀行」・53頁）（「春燈」・6月1日・第27

卷6号・6～11頁)

津軽川のイタコ盆入\*まつり紀行・54▽(「春燈」・7月1日・第

27巻7号・6～12頁)

足柄の曾我的傘焼入\*まつり紀行・55▽(「春燈」・8月1日・第

27巻8号・6～10頁)

那智の火祭り入\*まつり紀行・56▽(「春燈」・9月1日・第27巻

9号・6～13頁)

土真い風物詩を(「中日劇場入女親分」・9月8日・巻号なし・

38～38頁)

和具の海女祭り入\*まつり紀行・57▽(「春燈」・10月1日・第27

巻10号・6～11頁)

役者の集まらない稽古場で(「演劇界」・11月1日・第30巻13号・

13～13頁)

碓氷峠の秋祭り入\*まつり紀行・58▽(「春燈」・11月1日・第27

巻11号・6～9頁)

海老江の霜月宮座入\*まつり紀行・59▽(「春燈」・12月1日・第

27巻12号・6～9頁)

昭和48年(一九七三)71歳

飯濃追分遠宮の祭り入\*まつり紀行・60▽(「春燈」・1月1日・

第28巻1号・6～8頁)

往事茫々(「歌舞伎座入江戸の花め組の喧嘩」・2月1日・巻号

なし・22～22頁)

奥三河の花祭り入\*まつり紀行・61▽(「春燈」・2月1日・第28

巻2号・6～9頁)

敦賀のエビス大黒綱曳入\*まつり紀行・62▽(「春燈」・3月1日

・第48巻3号・6～9頁)

薄雪大夫について(「新橋演舞場」・3月2日・巻号なし・4～5

頁)

春の三つの祭り(「旅」・4月1日・第47巻4号・11～11頁)

四天王寺のドヤドヤ入\*まつり紀行・63▽(「春燈」・4月1日・

第28巻4号・6～11頁)

秋の鍛倉・散歩道「半僧坊道」(「旅」・5月1日・第47巻5号・

73～73頁)

横手の梵天奉納祭入\*まつり紀行・64▽(「春燈」・5月1日・第

28巻5号・6～11頁)

往事茫々「祝辞にかえて」(「明治座入狐と笛吹き」・6月1日

・巻号なし・18～18頁)

酔弔詞(「演劇界」・6月1日・第31巻6号・73～73頁)

利根川べりの泥んこ祭り入\*まつり紀行・65▽(「春燈」・6月1

日・第28巻6号・6～11頁)

奥の細道（「中日劇場」・6月2日・巻号なし・2～2頁）

雑談（「御園座入霧の音」・7月1日・巻号なし・4～5頁）

三方五脚の王の舞（「まつり紀行」・66頁（「春燈」）・7月1日・第

28巻7号・6～9頁）

木曾川谷の虫送り（「まつり紀行」・67頁（「春燈」）・8月1日・第

28巻8号・6～10頁）

弥彦川の燈籠電車（「まつり紀行」・68頁（「春燈」）・9月1日・第

28巻9号・6～11頁）

遠い日のゆめ（「隨筆集大阪讃歌」・9月29日・148～151頁）＊ロイ

ヤルホテル新館完成記念出版。非売品。

豊浜の鯛祭り（「まつり紀行」・69頁（「春燈」）・10月1日・第28巻

10号・6～9頁）

佃の渡し（「新橋演舞場」・10月29日・巻号なし・18～19頁）

越中八尾の風の盆（「まつり紀行」・70頁（「春燈」）・11月1日・第

28巻11号・6～10頁）

近江中山の芋くらべ（「まつり紀行」・71頁（「春燈」）・12月1日・

第28巻12号・6～11頁）

昭和49年（一九七四）72歳

日野法界寺の裸踊り（「まつり紀行」・72頁（「春燈」）・1月1日・

第29巻1号・8～12頁）

若狭日向の水中綱曳（「まつり紀行」・73頁（「春燈」）・2月1日・

第29巻2号・6～9頁）

深川年増のプロローグ・浅草十二階（「新橋演舞場」・3月1日・

巻号なし・25～25頁）

霧立のぼるといふ女優（「演劇閑話」・1頁（「樫人間讃歌」）・3月

1日・第3号・93～97頁）

能登の鶴祭り（「まつり紀行」・73頁（「春燈」）・3月1日・第29巻

3号・6～11頁）＊連載回数、二度めの誤記・カウント。

秩父の夜祭り（「まつり紀行」・75頁（「春燈」）・4月1日・第29巻

4号・6～10頁）

菊田一夫、以って冥すべし（「読売新聞」・4月5日）†

新国劇の文楽騒動（「演劇閑話」・2頁（「樫人間讃歌」）・5月1日

・第4号・105～109頁）

奈良坂の三人翁舞（「まつり紀行」・76頁（「春燈」）・5月1日・第

49巻5号・6～11頁）

春日局（筋書）（「歌舞伎座」・5月2日・巻号なし・6～12頁）

＊のち「歌舞伎座」・昭和50年10月2日・巻号なし・26～34頁、

「南座」・昭和53年9月1日・巻号なし・21～29頁に転載。

わたしの春日局（「歌舞伎座」・5月2日・巻号なし・4～5頁）

＊のち「南座」・昭和53年9月1日・巻号なし・4～5頁）



新薬師寺のお松明へ\*まつり紀行・77▽(「春燈」)・6月1日・第

29巻6号・6~10頁)

昔懐しい宝塚歌劇へ\*演劇閑話・3▽(「樵人間讃歌」)・7月1日

・第5号・107~111頁)

古座川の舟祭りへ\*まつり紀行・78▽(「春燈」)・7月1日・第29

巻7号・6~9頁)

新国劇の「文楽」騒動(「演劇界」)・8月1日・第32巻9号・69~

70頁)

当麻寺二十五菩薩へ\*まつり紀行・79▽(「春燈」)・8月1日・第

29巻8号・6~11頁)

花柳章太郎との恋へ\*演劇閑話・4▽(「樵人間讃歌」)・9月1日

・第6号・85~89頁)

大利根の川祇園へ\*まつり紀行・80▽(「春燈」)・9月1日・第29

巻9号・6~12頁)

松本の盆々と青山様へ\*まつり紀行・81▽(「春燈」)・10月1日・

第29巻10号・6~8頁)

丑の刻詣り(「中央公論」)・11月1日・第89巻11号・248~249頁)

大恩人井上正夫へ\*演劇閑話・5▽(「樵人間讃歌」)・11月1日・

第7号・79~83頁)

佐久望月の糖祭りへ\*まつり紀行・82▽(「春燈」)・11月1日・第

29巻11号・6~9頁)

新生新派のために(「新橋演舞場へ白粉花」)・11月2日・巻号な

し・4~5頁)

浅間の湯の松明祭りへ\*まつり紀行・83▽(「春燈」)・12月1日・

第29巻12号・6~9頁)

昭和50年(一九七五)73歳

孤愁の役者藤村秀夫へ\*演劇閑話・6▽(「樵人間讃歌」)・1月1日

・第8号・90~93頁)

横浜港の除夜の笛へ\*まつり紀行・84▽(「春燈」)・1月1日・第

30巻1号・6~9頁)

初春言(「新橋演舞場へ女剣劇朝霧一座」)・1月2日・巻号なし

・6~7頁)

小田原秋葉山火伏呪法へ\*まつり紀行・85▽(「春燈」)・2月1日

・第30巻2号・6~10頁)

大矢市次郎の気骨へ\*演劇閑話・7▽(「樵人間讃歌」)・3月1日

・第9号・81~85頁)

奥三河黒沢田桑へ\*まつり紀行・86▽(「春燈」)・3月1日・第30

巻3号・6~10頁)

「だんじり囃子」回想(「歌舞伎座」)・3月11日・巻号なし・6~

6頁)

近江八幡の二つの火祭りへまつり紀行・87▽（「春燈」・4月1日  
 ・第30巻4号・6〜8頁）

万年雪・島田正吾へ演劇閑話・8▽（「樵人間讃歌」・5月1日  
 ・第10号・89〜93頁）

三上山の籠の火祭りへまつり紀行・88▽「春燈」・5月1日・第  
 30巻5号・6〜9頁）

幸せ至り「北條十二選」思い出された創作の苦勞・涙（「読売新聞」  
 ・5月22日夕刊）

文之助茶屋の記（「南座」・6月1日・巻号なし・16〜17頁）  
 劇作家以前（「演劇界」・6月1日・第33巻6号・54〜55頁）

石尊の火祭りへまつり紀行・89▽（「春燈」・6月1日・第30巻  
 6号・6〜9頁）

新派とわたし（「国立劇場へ玉菊燈籠▽」・6月5日・巻号なし・  
 30〜31頁）

緒形の三吉像を（「三越劇場へ王将▽」・6月10日・巻号なし・頁  
 未詳）\*のち「大阪三越劇場」・12月14日・巻号なし・3〜3頁

に転載。

春日局のカルテ（「中日新聞」・6月10日夕刊）

薄倅の美女・成田菊雄へ演劇閑話・9▽（「樵人間讃歌」・7月  
 1日・第11号・93〜97頁）

秋田の竿燈へまつり紀行・90▽（「春燈」・7月1日・第30巻7  
 号・6〜7頁）

横手のカマクラへまつり紀行・91▽（「春燈」・8月1日・第30  
 巻8号・6〜9頁）

北條十二選をみて（「国立劇場へ霧の音▽」・8月8日・巻号なし  
 ・32〜32頁）

直情の人・俵藤丈夫へ演劇閑話・10▽（「樵人間讃歌」・9月1  
 日・第12号・75〜79頁）

大曲の雪中綱曳へまつり紀行・92▽（「春燈」・9月1日・第30  
 巻9号・6〜10頁）

信濃別所の岳の熾へまつり紀行・93▽（「春燈」・10月1日・第  
 30巻10号・6〜9頁）

団十郎娘・市川翠扇へ演劇閑話・11▽（「樵人間讃歌」・11月1  
 日・第13号・74〜82頁）

阿南和合の念仏踊りへまつり紀行・94▽（「春燈」・11月1日・  
 第30巻11号・6〜11頁）

妙哉の獅子舞へまつり紀行・95▽（「春燈」・12月1日・第30巻  
 12号・6〜11頁）

昭和51年（一九七六）74歳

〔\*無題〕へ芝居という國・1▽（「樵人間讃歌」・1月1日・

第14号・67～72頁)

尾張国府宮の健追神事へ\*まつり紀行・96▽(「春燈」・1月1日

・第31卷1号・6～10頁)

新派藏(「新橋演舞場へおぼこ」・1月2日・巻号なし・18～19

頁)

交遊抄(「日本経済新聞」・1月27日夕刊)

往事茫茫(「歌舞伎座」・1月28日・巻号なし・2～2頁) \*鶴賀

朝太夫の会公演。

群馬少林山の達磨市へ\*まつり紀行・97▽(「春燈」・2月1日・

第31卷2号・6～10頁)

浮舟(「新橋演舞場」・2月2日・巻号なし・18～19頁)

神の如き英太郎へ\*芝居という国・2▽(「樞人間讃歌」・3月1

日・第15号・76～80頁)

三浦岬のオンベ焼きへ\*まつり紀行・98(「春燈」・3月1日・第

31卷3号・6～10頁)

山鳩(「新橋演舞場」・3月4日・巻号なし・4～5頁)\*のち「中

座」・10月2日・巻号なし・20～21頁に転載。

大磯のサイト焼きへ\*まつり紀行・99▽(「春燈」・4月1日・第

31卷4号・6～9頁)

わたしの嵯峨あるき・京都へ旅する娘へ(「樞人間讃歌」・5月1

日・第16号・41～48頁)

貴妃醉酒・西脇滋へ\*演劇閑話・3▽(「樞人間讃歌」・5月1日

・第16号・87～90頁)

近江長浜の曳山祭りへ\*まつり紀行・100▽(「春燈」・5月1日・

第31卷5号・5～9頁)

京舞ふたたび(「新橋演舞場」・5月3日・巻号なし・4～5頁)

「新派群像」を書いた北條秀司さん(「読売新聞」・6月1日)

向島木母寺の梅若祭りへ\*まつり紀行・101▽(「春燈」・6月1日

・第31卷6号・6～11頁)

演劇舞踊家・西川鯉三郎へ\*芝居という国・4▽(「樞人間讃歌」

・7月1日・第17号・96～100頁)

岡崎滝山寺の鬼祭りへ\*まつり紀行・102▽(「春燈」・7月1日・

第31卷7号・6～9頁)

「山から物語」懐昔(「御園座」・7月18日・巻号なし・8～9頁)

軽井沢のお祭り(「演劇界」・8月1日・第34卷6号・70～71頁)

佃島の盆踊りへ\*まつり紀行・103▽(「春燈」・8月1日・第31卷

8号・6～10頁)

智恵子抄回想(「新橋演舞場」・8月30日・巻号なし・18～19頁)

軽井沢銀座(「銀座百点」・9月1日・第262号・28～29頁)

奇祭素描(「文藝春秋デラックス」・9月1日) +

狂言作者・竹柴二作△芝居という園・5▽（「樵人間讃歌」・9

月1日・第18号・78〜83頁）

佃祭り△まつり紀行・104▽（「春燈」・9月1日・第31卷9号・

6〜10頁）

祇園囃子の郷愁（「明治座」・9月2日・8〜9頁）

大和農村の野神祭り△まつり紀行・105▽（「春燈」・10月1日・

第31卷10号・6〜11頁）

〔\*無題〕（「小田原市民会館／劇団こゆるぎ座」・10月16日・巻  
号なし・4〜4頁）\*演目未詳。

△芝居という園・6▽（「樵人間讃歌」・11月1日・第19号）+

戸隠のお宜澄踊り△まつり紀行・106▽（「春燈」・11月1日・第

31卷11号・6〜10頁）

奥州二本松の提灯祭り△まつり紀行・107▽（「春燈」・12月1日

・第31卷12号・6〜9頁）

昭和52年（一九七七）75歳

描きかけの自画像△芝居という園・7▽（「樵人間讃歌」・1月

1日・第20号・90〜95頁）

唐招提寺無月の茶会△まつり紀行・108▽（「春燈」・1月1日・

第32卷1号・6〜9頁）

出獄後の花井お梅（「新橋演舞場△旅役者お梅▽」・1月2日・巻

号なし・4〜5頁）

井伊大老の歳月（「歌舞伎座」・1月2日・17〜17頁）

金剛山下の大火焚△まつり紀行・109▽（「春燈」・2月1日・第

32卷2号・6〜9頁）

描きかけの自画像△その二▽（「樵人間讃歌」・3月1日・第21号

・90〜95頁）

三河湾蠟豆の火祭△まつり紀行・110▽（「春燈」・3月1日・第

32卷3号・6〜10頁）

恋しき人へ（「新橋演舞場△未摘花▽」・3月3日・巻号なし・4

〜5頁）

作品を出すにあたって（「東京宝塚劇場△朱雀門の鬼▽」・4月1

日・巻号なし・27〜27頁）

隨の世阿弥（「歌舞伎座△花のゆくえ▽」・4月1日・巻号なし・12

〜13頁）

川原湯の湯かけ祭り△まつり紀行・111▽（「春燈」・4月1日・

第32卷4号・6〜10頁）

京舞今昔（「中日劇場」・4月2日・巻号なし・2〜3頁）

群馬平野の墨つけ祭り△まつり紀行・112▽（「春燈」・5月1日

第32卷5号・6〜8頁）

身内作家として（「新橋演舞場△女優▽」・5月2日・巻号なし・

6(6頁)

描きかけの自画像(「樞人間讃歌」・5月10日・第22号・97(102頁)

清涼寺の嵯峨狂言(「樞人間讃歌」・9月15日・第24号・

32巻6号・6(9頁)

鹿島の祭頭祭(「樞人間讃歌」・7月1日・第32巻

7号・6(10頁)

雑談(「中座(王将)」・7月2日・巻号なし・18(19頁)

一枚の地図・箱根八里(「サンケイ新聞」・7月3日夕刊)†

近江筑摩の鍋冠祭り(「樞人間讃歌」・8月1日・

第32巻8号・6(10頁)

卒へ・しつかりやって来い卒(「劇団青年座地方巡演パンフレット

王将」・8月18日・巻号なし・5(5頁)

築地小劇場の碑の前で(「サンケイ新聞」・8月20日)†

マチ子の方(「歌舞伎座(雪の湖)」・9月1日・巻号なし・18(

19頁)・\*のち「新橋演舞場」・11月3日・巻号なし・6(7頁に

転載。

京舞随想(「明治座」・9月1日・巻号なし・22(22頁)

中秋名月の唐招提寺(「旅」・9月1日・第51巻9号・77(83頁)

館登川の神輿下ろし(「樞人間讃歌」・9月1日・

第32巻9号・6(10頁)

「王将」随想(「東京宝塚劇場」・9月3日・巻号なし・22(22頁)

名作「王将」思い出すま(「樞人間讃歌」・9月15日・第24号・

12(17頁)

京の秋(「読売新聞」・10月1日)

由比ヶ浜の河童祭り(「樞人間讃歌」・10月1日・

第32巻10号・6(9頁)

辛延を悼む(「大阪芸人かたぎ」・10月15日・読売新聞社・319(322

頁)

勘三郎素描(「演劇界」・11月1日・第35巻11号・130(130頁)

筑波山の葦祭り(「樞人間讃歌」・11月1日・第32

巻11号・6(11頁)

大船田圃のお祭り(「樞人間讃歌」・12月1日・第

31巻12号・6(9頁)

昭和53年(一九七八)76歳

浮名(「春燈」・1月1日・第33巻1号・6(9頁)

中村駒七(「春燈」・2月1日・第33巻2号・6(9頁)

京の節分(「毎日新聞」・2月2日夕刊)

寝正月(「春燈」・3月1日・第33巻3号・6(8頁)

箱根の話(「春燈」・4月1日・第33巻4号・6(9頁)

終戦翌年の祇園祭(「春燈」・5月1日・第33巻5号・6(7頁)

歳月（「新橋演舞場」・5月4日・巻号なし・6～7頁）\* 昭和47年のものとは同題、別内容。

古川ロッパの手紙（「春燈」・6月1日・第33巻6号・6～7頁）

葵祭（「春燈」・7月1日・第33巻7号・6～8頁）

私の履歴書（「日本経済新聞」・7月～8月連載）†

わが歳月（1）（「春燈」・8月1日・第33巻8号・6～10頁）

わが歳月（2）（「春燈」・9月1日・第33巻9号・6～10頁）

狐と笛吹き（「新橋演舞場」・10月1日・巻号なし・10～10頁）

わが歳月（3）（「春燈」・10月1日・第33巻10号・6～10頁）

大好きな西陣界限（「歌舞伎座」西陣の狸）・10月2日・巻号なし・30～31頁）

わが歳月（4）（「春燈」・11月1日・第33巻11号・6～10頁）

風談（「新橋演舞場」紙屋治兵衛）・11月3日・巻号なし・6～7頁）

わが歳月（5）（「春燈」・12月1日・第33巻12号・6～10頁）

昭和54年（一九七九）77歳

大正十四年の初芝居（「演劇界」・1月1日・第37巻1号・26～27頁）

わが歳月（6）（「春燈」・1月1日・第34巻1号・6～8頁）

おめでとう（「新橋演舞場」深川年増）・1月2日・巻号なし・

4～5頁）

わが歳月（7）（「春燈」・2月1日・第34巻2号・6～9頁）

わが歳月（8）（「春燈」・3月1日・第34巻3号・6～10頁）

島原のゆめ（「新橋演舞場」太夫さん）・3月2日・巻号なし・

6～7頁）

祭りの笛（「サンケイ新聞」・3月8日～4月5日・連載15回）†

わが歳月（9）（「春燈」・4月1日・第34巻4号・6～9頁）

奥伯濃（「新橋演舞場」祭りの笛）・4月13日・巻号なし・6～7頁）

7頁）

わが歳月（10）（「春燈」・5月1日・第34巻5号・14～18頁）

わが歳月（11）（「春燈」・6月1日・第34巻6号・6～10頁）

新宮町と私（「緑の生活」・6月25日・第45号・第1～1面）

わが歳月（12）（「春燈」・7月1日・第34巻7号・6～10頁）

わが歳月（13）（「春燈」・8月1日・第34巻8号・6～9頁）

「紙屋治兵衛」に就いて（地方巡演パンフレット・8月・日付なし・巻号なし・14～14頁）

わが歳月（14）（「春燈」・9月1日・第34巻9号・4～8頁）

わが歳月（15）（「春燈」・10月1日・第34巻10号・6～11頁）

わが歳月（16）（「春燈」・11月1日・第34巻11号・6～10頁）

昭和55年（一九八〇）78歳

出雲崎にて〔「春燈」・1月1日・第35卷1号・6～10頁〕

新春雑談〔「関大」第23号・1～1頁〕

湖北のおこない〔「春燈」・2月1日・第35卷2号・6～10頁〕

〔「紙屋治兵衛」に就いて〔「南座」・3月1日・巻号なし・24～25頁〕\*前年の地方巡演用パンフレットとは別内容。

菊田一夫の功罪〔「悲劇喜劇」・3月1日・第33卷3号・8～10頁〕

足柄路の除夜〔「春燈」・3月1日・第35卷3号・6～10頁〕

王子のタコ市〔「春燈」・4月1日・第35卷4号・6～9頁〕

薬師寺の花会式〔「春燈」・5月1日・第35卷5号・6～9頁〕

仏法僧〔「読売新聞」・5月15日夕刊〕

鞍馬の満月祭〔「サンケイ新聞」・5月17日夕刊〕

常照皇寺まで〔「春燈」・6月1日・第35卷6号・4～7頁〕

水谷八重子〔「水谷八重子1974～1979」・6月20日・平凡社・111～122頁〕

嵯峨野〔「春燈」・7月1日・第35卷7号・4～7頁〕

ほおずき市〔「春燈」・8月1日・第35卷8号・4～7頁〕

お墓のことなど〔「春燈」・9月1日・第35卷9号・4～10頁〕

兎と亀〔「春燈」・10月1日・第35卷10号・4～8頁〕

京の冬〔「春燈」・11月1日・第35卷11号・4～6頁〕

除夜の鐘いろいろ〔「春燈」・12月1日・第35卷1号・6～8頁〕

昭和56年（一九八一）79歳

真夜中の恐山〔「春燈」・1月1日・第36卷1号・4～8頁〕

〔「花魁草」のモデル〔「歌舞伎座」・2月1日・巻号なし・28～29頁〕

イタリアの大地震〔「春燈」・2月1日・第36卷2号・4～7頁〕

利倉幸一贋〔「演劇界」・3月1日・第39卷3号・84～85頁〕

三月十日の大空襲〔「春燈」・3月1日・第36卷3号・8～12頁〕

佃島〔「読売新聞」・3月・日付未詳〕†

亡き朝忠夫人を偲びて〔「歌舞伎座」・3月27日・巻号なし・頁未詳〕\*演目未詳

テヘランと砂漠都市〔「春燈」・4月1日・第36卷4号・6～9頁〕

私と宝塚・ばばゼンヌ〔「上方芸能」・4月10日・第70号・14～14頁〕

淀君の隠れ墓〔「春燈」・5月1日・第36卷5号・6～9頁〕

花ざかりの死〔「演劇界」・6月1日・第39卷6号・65～65頁〕

花冷えの記〔「春燈」・6月1日・第36卷6号・6～10頁〕

陸奥のキリスト祭り〔「春燈」・7月1日・第36卷7号・6～9頁〕

稽古場で〔「梅田コマ劇場入祇園囃子」〕・7月3日・巻号なし・16～17頁〕

秋出水〔「春燈」・8月1日・第36卷8号・4～7頁〕

山家日記〔「春燈」・9月1日・第36卷9号・6～10頁〕

「わが歳月」一段落で戯曲を一本（「毎日新聞」・9月28日）

往事茫茫（「春燈」・10月1日・第36卷10号・6〜9頁）

井伊大老を書いた年（「歌舞伎座」・11月1日・巻号なし・24〜25頁）

頁）

浅草の酉の市（「春燈」・11月1日・第36卷11号・4〜8頁）

春燈茫茫二十年（「春燈」・12月1日・第36卷12号・6〜9頁）

昭和57年（一九八二）80歳

春待つ心△\*老鬼の寝言・1▽（「演劇界」・1月1日・第40巻1号・36〜36頁）

奥日光（「春燈」・1月1日・第37巻1号・6〜9頁）

作者も大老△\*老鬼の寝言・2▽（「演劇界」・2月1日・第40巻2号・36〜36頁）

箱根権現龍神祭り（「春燈」・2月1日・第37巻2号・7〜12頁）

一葉抄について（「東京三越劇場」・2月4日・巻号なし・2〜3頁）

仙台平とステテコ△\*老鬼の寝言・3▽（「演劇界」・3月1日・第40巻3号・36〜36頁）

羽後西馬音内の亡者踊り（「春燈」・3月1日・第37巻3号・4〜9頁）

9頁）

民間放送の草創期△\*老鬼の寝言・4▽（「演劇界」・4月1日・

第40巻4号・61〜61頁）

お水取の頃（「春燈」・4月1日・第37巻4号・4〜7頁）

作家のしあわせ（「南座△雪小袖▽」・4月3日・巻号なし・16〜17頁）

17頁）

多情作家△\*老鬼の寝言・5▽（「演劇界」・5月1日・第40巻5号・61〜61頁）

号・61〜61頁）

奥みちのくの祭り（「春燈」・5月1日・第37巻5号・6〜10頁）

佃の渡しの郷愁（「新橋演舞場」・5月2日・巻号なし・4〜5頁）

淀君の生熊（「歌舞伎座」・5月3日・巻号なし・32〜33頁）

献辞（「読売ホール」・5月18日・巻号なし・18〜18頁）

花柳草太郎さん・女から学べぬ「女」教わる（「毎日新聞」・5月27日夕刊）

27日夕刊）

お通夜のリハール△\*老鬼の寝言・6▽（「演劇界」・6月1日・第40巻7号・61〜61頁）

・第40巻7号・61〜61頁）

春寒記（「春燈」・6月1日・第37巻6号・4〜9頁）

矢の倉ホテル△\*老鬼の寝言・7▽（「演劇界」・7月1日・第40巻8号・36〜36頁）

巻8号・36〜36頁）

老猷記（「春燈」・7月1日・第37巻7号・6〜9頁）

幻の堀江川（「新橋演舞場」・7月3日・巻号なし・14〜15頁）

「王将」の辰巳柳太郎（「上方芸能」・7月10日・第77号・34〜34



頁)

鬼の会△老鬼の寝言・8▽(「演劇界」・8月1日・第40巻9号・61〜61頁)

幻の草軽電車(「春燈」・8月1日・第37巻8号・6〜10頁)

放送劇過去帖△老鬼の寝言・9▽(「演劇界」・9月1日・第40

巻10号・53〜53頁)

軽井沢雜記(「春燈」・9月1日・第37巻9号・4〜7頁)

七人の会と山口広一・上△老鬼の寝言・10▽(「演劇界」・10月

1日・第40巻11号・61〜61頁)

南京(「春燈」・10月1日・第37巻10号・4〜6頁)

七人の会と山口広一・下△老鬼の寝言・11▽(「演劇界」・11月

1日・第40巻12号・61〜61頁)

上海(「春燈」・11月1日・第37巻11号・4〜9頁)

女優風談(「新橋演舞場」・11月5日・巻号なし・4〜5頁)

四人会・土の会・花の会△老鬼の寝言・12▽(「演劇界」・12月

1日・第40巻14号・61〜61頁)

わが家の推理ドラマ(1)(「春燈」・12月1日・第37巻12号・4

〜7頁)

昭和58年(一九八三)81歳

わが家の推理ドラマ(2)(「春燈」・1月1日・第38巻1号・4

〜7頁)

高速嫌い(「春燈」・2月1日・第38巻2号・5〜8頁)

立春雜話(「明治座」・2月2日・巻号なし・4〜5頁)

奈良演を前にして(「春燈」・3月1日・第38巻3号・4〜7頁)

作者の前書(「演劇界」・3月1日・第41巻3号・82〜89頁)

浮舟の風土(「歌舞伎座」・3月2日・巻号なし・12〜13頁)

雪(「春燈」・4月1日・第38巻4号・4〜7頁)

哈爾濱(「春燈」・5月1日・第38巻5号・4〜7頁)

鷹治郎の幻(「演劇界」・6月1日・第41巻6号・90〜91頁)

夜だけのふるさと(「春燈」・6月1日・第38巻6号・4〜6頁)

築地のわかれ(「春燈」・7月1日・第38巻7号・4〜7頁)

モーツァルト(「春燈」・8月1日・第38巻8号・4〜6頁)

信濃大町(「春燈」・9月1日・第38巻9号・4〜8頁)

西川鯉三郎(「春燈」・10月1日・第38巻10号・4〜8頁)

松川事件の劇化(「演劇界」・11月1日・第41巻12号・89〜89頁)

死花(「春燈」・11月1日・第38巻11号・4〜8頁)

もし(「春燈」・12月1日・第38巻12号・6〜9頁)

昭和59年(一九八四)

比叡風し(「春燈」・1月1日・第39巻1号・4〜8頁)

鎌倉(「春燈」・2月1日・第39巻2号・4〜6頁)

芸術座柿落し（「春燈」・3月1日・第39卷3号・4〜8頁）

炬燵で聴いた話（「春燈」・4月1日・第39卷4号・4〜7頁）

たぐいまれな知事役者（「読売新聞」・4月9日夕刊）\*のち「演劇界」

劇界」・5月1日・第42巻5号・89〜89頁に転載・

京のゆめ（「春燈」・5月1日・第39巻5号・4〜7頁）

霧の音（「名鉄ホール」・5月27日・巻号なし・4〜5頁）

箱根の話（続）（「春燈」・6月1日・第39巻6号・4〜7頁）

羽生野（「春燈」・7月1日・第39巻7号・4〜7頁）

太夫さん余話（「春燈」・8月1日・第39巻8号・4〜7頁）

作者のことば（「毎日新聞」・8月13日）\*「演劇太平記」に関する予告。

る予告。

京のお精霊迎え（「中日新聞」・8月4日夕刊）

信濃の盆踊り（「中日新聞」・8月11日夕刊）

津軽の砂山踊り（「中日新聞」・8月18日夕刊）

富士の裾野の火祭り（「中日新聞」・8月25日夕刊）

文楽の鬼山口広一（「春燈」・9月1日・第39巻9号・4〜9頁）

焼け野原に立って（\*演劇太平記その1）（「毎日新聞」・9月2

日朝刊）

女優を駅まで送りせる（\*演劇太平記その2）（「毎日新聞」・9

月9日朝刊）

敗戦国民へ祭り囃子（\*演劇太平記その3）（「毎日新聞」・9月

16日朝刊）

通行止めしてランデブー（\*演劇太平記その4）（「毎日新聞」・

9月23日朝刊）

「王将」のはじまり（\*演劇太平記その5）（「毎日新聞」・9月

30日朝刊）

たのしかりし源氏ドラマ（「春燈」・10月1日・第39巻10号・4〜

7頁）

樋口十一のこと（樋口十一著「風雲児沢田正二郎」・10月3日・青

英舎・1〜40頁）

将棋の神々泣く（\*演劇太平記その6）（「毎日新聞」・10月7日

朝刊）

関西名人に祭り上げ（\*演劇太平記その7）（「毎日新聞」・10月

14日朝刊）

続王将暗礁に（\*演劇太平記その8）（「毎日新聞」・10月21日朝

刊）

将棋盤で沢庵を（\*演劇太平記その9）（「毎日新聞」・10月28日

朝刊）

お花畑への郷愁（「春燈」・11月1日・第39巻11号・4〜8頁）

文楽事件の大序（\*演劇太平記その10）（「毎日新聞」・11月4日

朝刊)

又楽座の友情へ\*演劇太平記その11▽(「毎日新聞」・11月11日朝刊)

文楽事件の修羅場へ\*演劇太平記その12▽(「毎日新聞」・11月18

日朝刊)

文楽事件の腹切り場へ\*演劇太平記その13▽(「毎日新聞」・11月

25日朝刊)

遠い青春歌(「春燈」・12月1日・第39巻12号・4~7頁)

時の氏神山城少掾へ\*演劇太平記その14▽(「毎日新聞」・12月2

日朝刊)

キティ台風で三越泊りへ\*演劇太平記その15▽(「毎日新聞」・12

月9日朝刊)

山霧の深い晩へ\*演劇太平記その16▽(「毎日新聞」・12月16日朝

刊)

新作好きの大谷松竹社長へ\*演劇太平記その17▽(「毎日新聞」・

12月23日朝刊)

昭和60年(一九八五)83歳

北條秀司作品が生れるまで(「演劇界」・1月1日・第43巻1号・

74~87頁) \*対談。

芸術的な庶民劇をへ\*演劇太平記その18▽(「毎日新聞」・1月6

日)

雑談(「演劇界」・1月12日・第43巻2号・118~119頁)

井上正夫の自殺未遂へ\*演劇太平記その19▽(「毎日新聞」・1月

13日朝刊)

社会の落ち葉へ\*演劇太平記その20▽(「毎日新聞」・1月20日朝

刊)

岡田嘉子の恩へ\*演劇太平記その21▽(「毎日新聞」・1月27日朝

刊)

足爪を剪ってやるへ\*演劇太平記その22▽(「毎日新聞」・2月3

日朝刊)

市川翠扇の爛漫性へ\*演劇太平記その23▽(「毎日新聞」・2月10

日朝刊)

菊田一夫と割り増し人生へ\*演劇太平記その24▽(「毎日新聞」・

2月17日朝刊)

役者の人間研究へ\*演劇太平記その25▽(「毎日新聞」・2月24日

朝刊)

赤い夕日の満州へへ\*演劇太平記その26▽(「毎日新聞」・3月3

日朝刊)

大陸の武装花嫁へ\*演劇太平記その27▽(「毎日新聞」・3月10日

朝刊)

天高き日当たる△\*演劇太平記その28▽(「毎日新聞」・3月17日朝刊)

朝刊)

くだらない挿話△\*演劇太平記その29▽(「毎日新聞」・3月24日朝刊)

朝刊)

東宮大佐劇異変△\*演劇太平記その30▽(「毎日新聞」・3月31日朝刊)

朝刊)

原野の人に謝罪△\*演劇太平記その31▽(「毎日新聞」・4月7日朝刊)

朝刊)

老獅子番迅△演劇太平記その32▽(「毎日新聞」・4月14日朝刊)

箱根の一夜△\*演劇太平記その33▽(「毎日新聞」・4月21日朝刊)

幽霊がでた放送局△\*演劇太平記その34▽(「毎日新聞」・4月28日朝刊)

日朝刊)

殺人外科の話△\*演劇太平記その35▽(「毎日新聞」・5月5日朝刊)

刊)

上高地の霧の音△\*演劇太平記その36▽(「毎日新聞」・5月12日朝刊)

朝刊)

儒濃乙女の死△\*演劇太平記その37▽(「毎日新聞」・5月19日朝刊)

刊)

丑の刻詣りの近代化△\*演劇太平記その38▽(「毎日新聞」・5月26日朝刊)

26日朝刊)

真葛ヶ原の女狐△\*演劇太平記その39▽(「毎日新聞」・6月2日朝刊)

朝刊)

女よりも女らしい△\*演劇太平記その40▽(「毎日新聞」・6月9日朝刊)

日朝刊)

人妻と真夏の一夜を△\*演劇太平記その41▽(「毎日新聞」・6月16日朝刊)

16日朝刊)

舟橋源氏と北條源氏△\*演劇太平記その42▽(「毎日新聞」・6月23日朝刊)

23日朝刊)

彦根城の楽々園△\*演劇太平記その43▽(「毎日新聞」・6月30日朝刊)

朝刊)

秋近き湖△\*演劇太平記その44▽(「毎日新聞」・7月7日朝刊)

芸術祭お流れ△\*演劇太平記その45▽(「毎日新聞」・7月14日朝刊)

世紀の大ドラマ放送△\*演劇太平記その46▽(「毎日新聞」・7月21日朝刊)

21日朝刊)

二人の大老△\*演劇太平記その47▽(「毎日新聞」・7月28日朝刊)

国立劇場大騒ぎ△\*演劇太平記その48▽(「毎日新聞」・8月4日朝刊)

朝刊)

可笑しかった川開き中継△\*演劇太平記その49▽(「毎日新聞」・8月11日朝刊)

8月11日朝刊)

新派という国△\*演劇太平記その50▽(「毎日新聞」・8月18日朝刊)